

令和元年度

湖南省教育委員会事業評価

湖南省教育委員会

# 評価報告書

令和元年度

湖南省教育委員会評価委員会

## 令和元年度 湖南省教育委員会評価委員会の実施について

本委員会では、湖南省教育委員会事業評価を外部評価委員の体制で実施し、今日までの評価項目全体を評価するのではなく、毎年度実施する所管課の最終評価を踏まえ、継続的に目標を達成している事業などについては、所管課の評価を尊重し、今後、市の教育においてさらなる取組が必要な重要項目に対し、委員会として評価を行うこととした。

令和元年度は、別紙に掲げる4事業を評価対象とし、各委員からの意見をもとに、総評および各項目に対する講評を行った。

今後は、本報告書に記載してある評価をもとに令和2年度以降の取組の改善を進められ、さらなる本市の教育の向上を願うものである。

令和2年5月19日

湖南省教育委員会評価委員会

## 外部評価実施内容

- ①日 時 令和元年 11 月 25 日（月）午後 2 時 30 分から  
場 所 湖南省役所西庁舎 3 階大会議室
- ②日 時 令和 2 年 5 月 19 日（火）午後 2 時 00 分から  
場 所 湖南省役所西庁舎 3 階大会議室

### 評価体制

外部評価委員（評価委員会委員）

横 山 幸 司（委員長）  
中 村 善 司（副委員長）  
平 野 龍 雲  
平 地 幸 美  
松 島 静

### 評価対象事業数

4 事業（令和元年度最終評価シート 39 項目の内）

### 対象事業

- 資料No. 2（学校教育課）
  - ・体験的活動の推進
- 資料No. 4（生涯学習課）
  - ・地域に密着した学習機会の提供と地域の文化・人材の育成
- 資料No.26（学校教育課）
  - ・学校体育の充実
- 資料No.34（教育総務課）
  - ・学校施設長寿命化計画の策定

## 【総 評（全体）】

今回、教育委員会事業評価の基となっている湖南省教育振興プランの計画期間が令和元年度をもって終了したことから、最後の評価となった。各事業の評価については、各委員より述べられた意見がすべてであり、この評価委員会での指摘事項をいかに事業に生かしていくか、第2期教育振興プランで改善・検討を求めたい。

新たに計画を策定する際は現在の業務の棚卸が必要で、現在行われている政策・事業を漏れなく把握しなければならない。その後、今実施している事業は本当に必要なのか、民間委託の可能性など今後の方向性について仕分ける作業がある。この作業を経て、新しい教育振興プランが策定されたと思われる。

次回、令和2年度からは新たな事業評価シートでの評価になるが、それにこだわることなく、不都合があれば柔軟にシートの見直しを行うべきである。

教育事業評価シートを、ただ記入するだけでは、まったく意味がないことであり、政策評価は評価委員会のために行っているのではない。行政がより効率的・効果的に政策を実施するため、不断の見直しをするために行っているのである。

新たな教育振興プランのもと、もう一度原点に立ち返って、自己評価というものを行っていただきたいと希望し総評とする。

## 【講評（事業別）】

### ○資料No.2（学校教育課）

- ・体験的活動の推進

## 【コメント】

- ・学校と地域の関係は、いまさら申し上げるまでもないが、近年は地域の変化も著しい。地域住民の横のつながりが希薄になったと言われて久しいが、単純に地域力が低下しているとは言えない。この事業の課題と改善の方向性は、そのまま地域の課題としても考えられる内容であり、改善の方向性のとおり、学校と地域との連携・協働には、地域ともに知恵を出し合いながら取り組みを進めていただきたい。
- ・湖南省の地域学校協働本部の設置が100%は素晴らしいと思う。今後はコミュニティ・スクールのネットワーク化と持続可能な事業にするため、仕組みや取り組みの中身を地域の願いと共に考えることが大切です。学校を核とした事業ですが、コーディネーター会議や本部会議で学校の業務の負担にならないよう

常に配慮が必要です。また、長続きさせるためには地域の「子育て組織体制」づくりとその組織の世代交代も常に考えることが必要です。

- ・ スクール・コミュニティ＝学校と協働して子どもを育てる地域づくりが市内で取り込まれ、成果を上げてきているとの評価がされている。少子化・核家族化が進む昨今において、子どもの成長を地域と学校とが共に連携して見守っていくことは今後も大切な活動であると思う。しかし、これには地域によって差があり、一つの評価として全体を捉えることは難しいと思う。それぞれの地域に見合った評価が必要ではないか。
- ・ 学校や地域での取り組みが広報や様々なツールを使って伝えられていることで、色々な世代の住民にもその様子が分かり、活動への参加協力も増加してくれば、地域の教育力も上がり、更なる活動の推進も望むことが出来るのではと思われる。スーパーシニアと呼ばれる方々の力は大きいですが、次に繋げていく方策も検討する必要がある。
- ・ 地域も変化をしてきているし、子どもたちが参加する事業も減少する中で、『子どもはキャスト・子どもはスタッフ』という目標に向かい、学校と地域が協働して取り組む体験活動が、肥えとなり実となって行くことが、すなわち地域の社会的ネットワークの構築に繋がると思える。

#### ○資料No. 4（生涯学習課）

- ・ 地域に密着した学習機会の提供と地域の文化・人材の育成

#### 【コメント】

- ・ この事業に関しては、担当課としても事業の効果や有用性について分析をされているので、改善の方向性のとおり事業のスクラップアンドビルドをされたい。
- ・ 従来の公民館やコミュニティセンターの講座では、絶えず市民のニーズを把握することが必要で、そのためには参加者名簿のデータ化や、多年度の参加者を表彰するなどの手段や働きかけも必要だと思います。社会教育はただ市民の自主的な学びを待つのではなく仕掛けることも必要です。そのためには常に魅力ある学習講座の計画性や、社会教育団体の育成が望まれるように思う。

- ・平成 30 年度の事業評価にも同じような評価がされていて、今回は達成度が B から C となっている。この時点で以前の評価の指摘や意見が反映されていないと思われる。この時代の地域のニーズは何か、地域住民の置かれている状況や生涯学習課としてどのような人材を育てていくのかなどの目標や目的が見えてこない。地域住民が生涯学習として学びを選択する機会は多くある中で、貴重な税金を投入して開催する事業の見直しをしていただきたい。

○資料No.26（学校教育課）

- ・学校体育の充実

【コメント】

- ・各学校の規模や学校運営などから、年間を通して一律の取り組みを遂行することは、なかなか難しいと思う。このため、事業評価として、全校を一律に評価することにも検討の余地がある。また、その評価を「新体力テスト」での大きな成果に求めることにも検討を要する。
- ・学校体育において、体を動かすことの好きな児童を育てることは大事です。すべての小学校で「10 分間運動」の定期的な時間設定ができているようなので、児童にその目的を理解させ、児童自ら自己評価（自己点検）をしながら取り組める事業として定着できるとよいと思います。また、教師は常に児童がチャレンジできるような働きかけも必要です。
- ・全ての小学校で「10 分間運動」を定期的実践することが出来たとの評価が出ているが、次年度にあたっての課題として、「10 分間運動」、時間の確保の関係で毎日実施することは出来なかったと記されている。少し矛盾があるように思われる。「10 分間運動」の位置づけは、何処にあるのかがわからないが、子どもたちの体力の向上を願うのならば、しっかりとした計画が必要で、そのためには時間の確保も保証しなければいけないと思う。たかが 10 分、されど 10 分、10 分の時間の確保は活かし方によって随分と変わるのではないか。一時「〇〇〇〇にチャレンジしてみよう！」と、色々な目標を掲げて子どもたちが縄跳びやマラソンや様々な運動器具・遊具などを利用して取り組んだ時代があった。その時と比較すると学校の授業内容や求められるもの等々も変化してきて、同じような事は出来ないと思うが、体力の向上を目指すうえでは侮れないものではないかと思う。体を動かすことが苦手な子どもとスポーツ大好きな子どもとの二極化の中で、どの子もその子なりに出来る体力づくりこそ大事

にしていきたいものである。

○資料No.34（教育総務課）

- ・学校施設長寿命化計画の策定

【コメント】

- ・学校施設の長寿命化に対する計画には、各施設の現状分析、各施設の維持・管理や運営の分析、改修や改築の判断、さらに地域の状況の変化に伴う生徒・児童数の動向など、建築の専門知識や調査や分析が必要となる。実施事業名が「学校施設長寿命化計画の策定」で、目標が「策定すること」になっている。施設整備が市長部局の所管になるが、教育委員会としての計画としていかに議論し計画策定するのかが目標となるべきではないか。
- ・本年度までに学校施設長寿命化計画を策定しなければならないようですが、湖南省教育委員会としての願い（ビジョン）は持つべきだと思います。かつて日本の学校は時代の最先端の施設であったように思います。国の方針であるならば、文科省で予算化をすべきだと考える。
- ・学校施設を含めた公共施設の長寿命化計画を令和2年度中に策定延期すると方針転換があったため、学校施設長寿命計画を策定できなかったとの評価であるが、人生100年時代ともいわれるなかで、学校施設長寿命計画は教育委員会として策定しておくべきであると考えます。
- ・少子化・教育学習形態の変化への対応・バリアフリー化・防犯対策・防災機能の強化・環境への配慮・地域に開かれた学校・財政の課題等々検討しなければならない事項が山ほどあるが、その課題を見据えてのこれからの学校の在り方を考えていく必要があり、そのためにもこの計画は必要である。



## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦 加代子
担当者	平居 繁和

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	1	学校・家庭・地域の連携と協働により教育力を高める
施策	1	家庭・地域の教育力を活かした地域の連携・協働の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	地域と共に歩む学校づくり		
実施事業	学校運営協議会の設置、地域学校協働本部の設置 地域学校協働活動の充実	継続	
主な財源 (千円)	歳入	補助金	4,815
	歳出	報償費(謝礼) 消耗品費、役務費(活動保険料)	7,224

## 3. 今年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市内で学校運営協議会を未設置の1中学校区については、これまでの校区連携や地域の実態を生かして、中学校区で学校運営協議会を設置することを各校地域学校協働本部で検討していく必要がある。
改善の方向性	地域住民の幅広い参画や、地域学校協働本部、学校運営協議会での熟議を行い、学校と保護者・地域住民が課題を共有し、共通の目標ビジョンを持って一体となって子ども育てを進める組織体制を構築していく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	学校運営協議会の設置、地域学校協働本部の設置
取組内容(活動指標)	市内で学校運営協議会を未設置の1中学校区については、これまでの校区連携や地域の実態を生かして、中学校区で学校運営協議会を設置することを3小中学校の各校地域学校協働本部で検討を進めていく。
目標(数値目標)	学校や中学校区の状況や実情を踏まえ、各学校ごとに地域の担い手となる子ども育てが持続するように取組の充実を図る。
達成効果(成果指標)	各まちづくり協議会や地元企業との連携や協働が進むようになり、各学校の状況や実情に即して「地域とともに歩む学校づくり」が進展していく。
実施事業	地域学校協働活動の充実
取組内容(活動指標)	市の財源措置と各校の計画、判断等から地域学校協働本部、土曜日の教育支援活動、地域未来塾(放課後等学習教室)、地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組を学校と地域が双方向に連携・協働する活動を進める。
目標(数値目標)	「学校は地域へ、地域は学校へ」を合い言葉に「地域とともにある学校づくり」を市内小中10校がコミュニティ・スクール、市内全小中13校の地域学校協働本部で実施する。
達成効果(成果指標)	各地域まちづくり協議会や地元企業等との連携や協働体制が進み、各校の状況や実情に即し、「地域とともにある学校づくり」が進展する。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	学校運営協議会の設置、地域学校協働本部の設置
実施内容(進捗実績)	水戸小学校と甲西北中学校が新たに平成31年4月に学校運営協議会を設置し、令和元年度湖南市内のコミュニティ・スクール(以下、CS)は、小学校7校、中学校3校となった。CSへの移行が未実施の甲西中校区については、これまでの校区連携や地域の実態を生かして、中学校区としてのCSへの移行を探る。すでに設置されている学校においては、まちづくり協議会との協働に努め、「スクール・コミュニティ=学校と協働して子どもを育てる地域」づくりを進めている。また、事業の基盤として組織している市内小・中13校の地域学校協働本部における取組を校報、コミュニティだより、〇〇応援だより等の発信により、地域と学校の連携の実際の認知度を高めている。
実施事業	地域学校協働活動の充実
実施内容(進捗実績)	市内全小・中学校で、地域学校協働本部を設置し、事業を推進している。。市財源措置と各校の構想、計画等から、地域学校協働活動推進事業(①全小・中学校における地域学校協働活動②小学校9校における土曜日の教育支援活動③中学校3校における放課後等学習教室(地域未来塾)、小学校4校地域における家庭教育支援基盤構築事業)の取組を、学校と地域が双方向に連携・協働する活動を進めつつある。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
学校運営協議会の設置、地域学校協働本部の設置	地域学校協働本部については、市内小中学校全13校が実施できている。甲西中校区の3校の学校運営協議会設置については、校区で1つの学校運営協議会を設置していく方向が確かめられた。	A (B) C D
地域学校協働活動の充実	まちづくり協議会との協働に努め、「スクール・コミュニティ=学校と協働して子どもを育てる地域」づくりを進めることができた。校報、コミュニティだより、〇〇応援だより等の発信により、地域と学校の連携の実際の認知度を高めることができた。	(A) B C D

7. 来年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	地域とともにある学校づくりをまちづくり協議会との協働により、充実した取組を学校で実施することができた。この取組については、継続発展させていく。さらに学校が核となって子どもたちの良さを生かして地域を活性化していく取組をすすめていく必要がある。
改善の方向性	学校が依頼をして地域とともにある学校づくりをするのではなく、学校運営協議会のどのような子どもをそだてるのか、どんな力をつけるのか、そのためにどんなことをしていくのかという熟議をもとに共に子どもを育てていく体制の構築を進めていく。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦 加代子
担当者	平居 繁和

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	1	学校・家庭・地域の連携・協働により教育力を高める
施策	2	自律・協働・創造力をもつ子どもの育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	体験的活動の推進		
実施事業	コミュニティ・スクール、地域学校協働本部における地域との連携・協働	継続	
主な財源 (千円)	歳入	補助金	4,815
	歳出	報償費(謝礼) 消耗品費、役務費(活動保険料)	7,224

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	「地域学校協働活動」に関わる人たちの意識が高まる中で、地域全体で子ども育てに取り組もうとする気運をさらに高めていく必要がある。
改善の方向性	地域による学校の「支援」から地域と学校の双方向の「連携・協働」へ、「個別の活動」から活動の「総合化・ネットワーク化」を図り、幅広い地域住民の参画による「地域学校協働活動」の推進を目指していく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	コミュニティ・スクール、地域学校協働本部における地域との連携・協働
取組内容(活動指標)	学校支援だけに留まらず、地域と学校が双方向に連携・協働し、子どものよさや課題等を共有し、子ども育てに関わる「地域学校協働活動」、「コミュニティ・スクール」へと発展させる。
目標(数値目標)	「学校は地域へ、地域は学校へ」を合い言葉に「地域とともにある学校づくり」を市内10校で「コミュニティ・スクール」、市内全小中13「地域学校協働本部」で実施する。
達成効果(成果指標)	学校の活動に関わる人の意識を高めることで、地域全体で子どもたちを育む気運が盛り上がってくる。子どもを取り巻く現状や学校の取組が伝わる中で地域あげて子ども育てに取り組む気運や組織体制の構築へ発展していく。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	コミュニティ・スクール、地域学校協働本部における地域との連携・協働
実施内容(進捗実績)	平成29年の地教行法改正により、学校運営協議会が努力義務化され、設置が進んでいる。その設置率は、全国の公立学校で14.7%、滋賀県で35%であり、湖南市は77%である。また、地域学校協働本部の設置も進められているが、滋賀県で48%であり、湖南市は100%である。全国及び滋賀県と比較して湖南市の取組は先行している。また、内容においても、単なる学校支援だけに留まらず、学校、地域あげて「子ども育て」をめざした連携・協働の取組が進みつつある。学校や地域における児童・生徒の育ちの姿を知らせる校報、コミュニティだより、〇〇応援団だより等で、学校や地域での児童・生徒の姿を発信する中で、地域全体で子ども育てに取り組む気運を高めている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
コミュニティ・スクール、地域学校協働本部における地域との連携・協働	地域とともにある学校づくりが進み、充実した取組の実施ができた。さらにまちづくり協議会との協働に努め、「スクール・コミュニティ=学校と協働して子どもを育てる地域」づくりを進めることもできた。	(A) B C D

7. 来年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	地域との連携と協働がすすむなか、学校支援活動に関わる人の意識が高まってきている。さらに地域全体で子ども育てに取り組もうとする機運をさらに高めていく必要がある。
改善の方向性	学校を支援する地域学校協働本部ではなく、地域とともに子どもを育てていくために、地域と学校が双方向に連携・協働していく地域学校協働本部の取組の方向を求めていく。そのために学校は積極的に地域に働きかけ、学校を核にした取組を実施していく。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦 加代子
担当者	青木 良道

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	1	学校・家庭・地域の連携と協力により教育力を高める
施策	3	将来の夢や目標をもてる子どもの育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	キャリア教育の推進		
実施事業	小中学校における系統的な取組の実施	継続	
	職場体験学習の実施(中学校2年生)	継続	
主な財源 (千円)	歳入	交付金	423
	歳出	報償費(謝礼)、消耗品費、印刷製本費、役務費(保険料)	423

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	職場体験学習の受入れ事業所が、十分確保できず、生徒が希望する職種の体験ができないことがある。
改善の方向性	職場体験学習の受入れ事業所をさらに開拓し、子どもたちの興味がある体験を充実させる。また、義務教育期間中に系統立てた指導を行い、進路選択の幅を広げる取組を行う。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	小中学校における系統的な取組の実施
取組内容(活動指標)	小学校段階において、体験学習を充実させ、豊かな勤労観を養う。また、地域で、会社を運営されている人や、国内で活躍されている人などを講師として学校に招き、実体験を聴くことにより、夢と志を育てる。 中学2年生の時期に実施する職場体験学習を充実した取組にする。また、中学1年生、3年生時の進路学習において、高校受験に向けた進路学習に限らず、将来の仕事選びに幅広い選択ができるようなキャリア教育を進める。 『職業なりきりカード』を活用し、児童生徒の職業選択の幅を広げる。(全小中学校に配布)
目標(数値目標)	全小中学校において、キャリア教育の年間計画に沿った学習を進め、勤労への意欲や将来への希望を持つ生徒を育成する。
達成効果(成果指標)	職場体験学習を中心とした進路学習を通して、将来の夢や希望を持って努力できるようになる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	小中学校における系統的な取組の実施
実施内容(進捗実績)	各校、年間計画に沿って、キャリア教育を計画的に進めることができている。特に、中学2年生を対象に実施している職場体験学習は、生徒にとって貴重な体験となっている。 職場体験で生徒を受け入れたいという事業所や店舗が今年度は何件か増え、生徒の職業選択を広めることにつながっている。 今後、各校の実態に応じた取組を行っていく予定である。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
主権者教育の推進	市内全ての小中学校で実践を行うことができた。小学校高学年から中学校にかけては、地域へ発信したり参画したりする取組を充実させることができた。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	今年度は令和元年度「中学生アイデアキャンプ」への参加は、昨年度より1校増え、2校となった。市内全ての中学校で実施することで、学ぶ機会を確保する必要がある。
改善の方向性	令和元年度「中学生アイデアキャンプ」へ市内全中学校が参加する。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	山川 眞智子、小林 直登

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	1	多様な学習機会の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	地域に密着した学習機会の提供と地域の文化・人材の育成	
実施事業	市民生涯学習講座委託事業の実施	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	委託費 400

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	今までは広く講座を募集していたが、昨年度から取り組んでいるこなん市民大学事業と連携する必要があることから、受注者提案型で事業を募集する等募集方法を見直す必要がある。
改善の方向性	こなん市民大学情報誌の目的と合致した講座を募集し、こなん市民大学の活性化を図るとともに、こなん市民大学情報誌で広く情報提供を行うことによって、各受託講座の受講者を増加を図る。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	市民生涯学習講座委託事業の実施
取組内容(活動指標)	市民生涯学習講座の委託を実施。総額40万円。5月の広報で企画を募集し、5月下旬に締め切る。教育委員会内部の審査会に諮って、各事業の採択の可否と分配金額を決定する。新規事業や新規応募団体、実施事業参加者数の増加を図るための工夫も行う。
目標(数値目標)	自らの学びを活かして、発信・企画する意思のある市民を支援し(応募団体の視点)、市民に生涯学習の多様で有意義な機会を与える(参加者の視点)。応募団体数、事業数、事業参加人数が前年度同数またはそれ以上になるようにする。
達成効果(成果指標)	地域の人材を発掘し活用することで、多様な学びの機会の提供ができる。また、学びの機会を得た参加者が、発信・企画者となって、学びの輪が広がっていく効果も期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	市民生涯学習講座委託事業の実施
実施内容(進捗実績)	<p>昨年度と同様に、広報5月号に募集記事を掲載し、市HPでも募集記事および応募様式を掲載した。また、東庁舎受付、図書館、各まちづくりセンターなどにも募集要項を配置し、周知に努めた。5月に3団体5講座の申し込みがあり、審査の結果3団体4講座を採択した(計250,000円)。昨年度は9団体10講座の応募があったが、今年度は団体数が3分の1に減少し、新規団体の応募はなかった。</p> <p>採択後は、事業参加者の増加を図るため、市民大学情報誌への参加者募集記事の掲載に加え、市HPおよび市公式アプリ「こなんいろ」への掲載も実施している。</p>

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
市民生涯学習講座委託事業の実施	<p>応募団体は昨年度の3分の1に減少し、3団体4講座の実施となった。のべ参加者は平成30年度は500人だったが、今年度は270人で大幅な減少となった。</p>	A B <b>C</b> D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	<p>本事業は平成23年度から実施しており、今年度で9年目になるが、新規団体の応募がなく、それぞれの事業への参加者も既存会員や既存利用者が多く、多様な学びの機会の提供や学びの輪の広がりにはつながっていないことが課題である。</p>
改善の方向性	<p>「地域の人材の発掘や活用」、「学びの輪の広がり」という本事業の本来の目的を効果的かつ効率的に達成できるよう、現在の形での実施を見直し、同目的をもつこなん市民大学の事業へ統合していく。</p>



## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	図書館
所管長	井上 勝
担当者	氏丸 隆弘

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	1	多様な学習機会の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	公立図書館の充実		
実施事業	図書館資料の計画的、効果的な収集、整理、保存及び廃棄の推進		継続
	電子図書館サービスの推進		継続
	ボランティアや市や関係団体、地域の人々との協働		継続
主な財源 (千円)	歳入	ふるさと基金 5,477	5,477千円
	歳出	人件費 97,794 消耗品費 36,769 委託料 10,575 使用料 7,742 備品購入費 15,205	144,879千円

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民の学びの質を高め、より多くの市民に利用・活用されるために、蔵書の充実を図るとともに、案内表示を工夫するなど、利用しやすい環境をつくる必要がある。また、より良いサービスを提供するとともに、質量ともに新たに増大・充実し続けている電子図書資料に対応していくことが必要。
改善の方向性	市民のニーズを把握し、資料を知る職員が資料と市民を結びつけることができるよう、両図書館と移動図書館で蔵書の充実を図る。 施設内では、だれもが快適に利用できる環境を整えるとともに、社会の変化に対応したサービスの実施に取り組む。 電子図書館を導入することで新たな電子図書資料の利用展開を図る。 図書館におけるボランティア活動を支援し、その学習の成果を活かした活動の場の提供に努め、地域との協働を図る。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	図書館資料の計画的、効果的な収集、整理、保存及び廃棄の推進
取組内容(活動指標)	資料収集計画に基づき資料購入(新刊書、買い替え本含む)を行うとともに、地域資料の整理等を進める。
目標(数値目標)	資料費の有効活用を行い、開架および書庫の配架変更も検討しつつ適正な配架に努める。
達成効果(成果指標)	市民の知る自由を保障し、暮らしに役立つ図書館、まちづくりに役立つ地域を知ることのできる図書館として、市民生活への浸透を図る。図書館を利用することで、市民は生涯を通じて学び、自らを向上させ、豊かで充実した人生を送ることができる。また、学んだことを地域活動や市民参画に活かすことができ、地域の活性化を図れる。
実施事業	電子図書館サービスの推進
取組内容(活動指標)	昨年度サービス提供を開始した電子図書館の導入でインターネットを通じ、いつでも、どこでも資料の利用が可能になる。
目標(数値目標)	電子図書館を導入することで新たな電子図書資料の利用展開を図る。
達成効果(成果指標)	電子図書資料に対応することにより、市民が図書館の資料を利用していただける機会を増やすことができる。

実施事業	ボランティアや市や関係団体、地域の人々との協働
取組内容(活動指標)	朗読をはじめ、おはなし会や人形劇などのボランティア団体等と連携しながら、障がい者サービスや児童奉仕の充実を図るとともに、市民との協働を進める。
目 標(数値目標)	社会情勢の変化や地域課題に着目し、市民や市役所の関係部局や関係団体とも連携を図りながら、障がい者サービスや児童奉仕を充実させるとともに、市民との協働を深め、共に創る図書館を目指す。
達成効果(成果指標)	障がい者サービスや児童奉仕の充実とともに、ボランティアをはじめ、市民に活躍の場を提供し、地域の人々と共に図書館を創ることにより、図書館利用の市民生活への浸透を図ることができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	図書館資料の計画的、効果的な収集、整理、保存及び廃棄の推進
実施内容(進捗実績)	9月末現在、新規購入図書は、5,405冊、8,894,844円を購入済で、夏休み用資料の購入等もあり、計画より若干早め(多め)の執行となった。除籍済(リサイクル、できないものは廃棄)冊数は2,626冊で、除籍の年間目標を今年度の受入冊数と同程度の約1万冊としているが、やや進捗が遅れている。
実施事業	電子図書館サービスの推進
実施内容(進捗実績)	昨年11月7日のサービス開始以来、ほぼ11か月となり、閲覧可能資料数は、1,229点となった(その内、今年度増加分は、537点)。今年度6か月間の閲覧件数は、956件(1月平均約159件)、貸出点数は、299点(1月平均約50点)となっている。
実施事業	ボランティアや市や関係団体、地域の人々との協働
実施内容(進捗実績)	今年初めての試みとして、9月に高齢福祉課と連携し、「世界アルツハイマー啓発事業『認知症を理解しよう』」を実施した。お話会やビデオ上映会、図書館資料の特設棚やパネルの設置等を行った。今年度後半も、地域創生推進課や人権擁護課、学校教育課等との連携事業の実施を予定している。また、ボランティアについても協働の形を探りながら昨年度と同様実施している。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
図書館資料の計画的、効果的な収集、整理、保存及び廃棄の推進	年間の新規購入図書は、10,620冊、14,999,824円を購入した。除籍済(リサイクル、できないものは廃棄)冊数は9,308冊で、除籍冊数と受入冊数と同程度の約1万冊としているので概ね予定どおりとなった。	A (B) C D
電子図書館サービスの推進	平成30年11月7日のサービス開始以来、ほぼ1年5か月となり、閲覧可能資料数は、年度末時点で、2,607点となった(その内、今年度増加分は、1,616点)。今年度1年間の閲覧件数(ログイン数)は、1,513件、貸出点数は、714点となっている。	A B (C) D
ボランティアや市や関係団体、地域の人々との協働	今年初めての試みとして、9月に高齢福祉課と連携し、「世界アルツハイマー啓発事業『認知症を理解しよう』」を実施した。お話会やビデオ上映会、図書館資料の特設棚やパネルの設置等を行った。今年度後半も、地域創生推進課や人権擁護課、学校教育課等との連携事業の実施を予定している。また、ボランティアについても協働の形を探りながら昨年度と同様実施している。	A B (C) D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	電子図書館の利用について、PRをより積極的に行い、新規開拓を進めていくとともに、現在の資料をより魅力的なものに高めていく。
改善の方向性	来館しなくても、365日、24時間いつでもアクセス・利用が可能なことをアピールし、また、新たな試みとしてデジタルアーカイブの作成にも取り組んでいく。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	石本 絢一

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政 策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施 策	2	健康スポーツと生涯スポーツの推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	ライフステージに応じた体と心を癒すスポーツ活動の継続	
実施事業	効果的なスポーツ情報の発信	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	人件費 200

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	前年度イベントによるアンケートの結果でわかったことは、世代によって見る媒体に違いのあることである。1つの媒体に頼る方法ではなかなかすべての世代の方を呼び込むことは難しいので、様々な媒体を活用するのは勿論であるが、見る方に合わせた媒体内容の工夫が必要である。アプリも今回活用したが、スポーツ関係の特設サイトやVTUBERといった新たな広報媒体の活用も視野に入れたい。
改善の方向性	特になし

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	効果的なスポーツ情報の発信
取組内容(活動指標)	イベント案内や取組を積極的に情報発信するとともに、媒体に応じた内容で読み手側が興味を惹く効果的な情報発信について検討する。
目 標(数値目標)	アプリ等を含めた年40回以上のスポーツ情報の発信と、前年度市民スポーツ参画アンケート・スポーツフェスティバルにおいて得られたアンケート結果を元に発信方法の改善を図る。また今年度湖南省HPが更新される予定なのでそれに併せたスポーツページを充実を図る。
達成効果(成果指標)	日頃スポーツに関心のない人、特に若い世代を中心にスポーツを親しむ意識の高まりが期待できる。また、次年度に向けてのより効果的な情報発信につながる事が期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	効果的なスポーツ情報の発信
実施内容(進捗実績)	広報こなん、KONANスポーツ、HP、区配布などで9月末現在24回情報発信している。10月20日に開催される「スポーツフェスティバル×健康まつり」は広報、HP、市内小中学校を中心としたチラシ配布、駅など市内一円にポスター掲示を実施している。また、市のVtuberMinamiなどのサブカルチャーで、若い方をはじめ市民のみなさんに健康に関心を持っていただく取り組みを行う。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
効果的なスポーツ情報の発信	年間50回の発信を行った。スポーツフェスティバルについては上記広報手段で発信を行い、Vtuberを活用した手法も新たに取り入れた。結果、前年度の参加者数を超えた。また、KONANスポーツデーについても前年度の参加者数を上回った。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	広報媒体についてはHPを見ていただき、事業に参加していただくことや、問合せを多くいただくのでHPを基本として広報を進めたい。QRコード等を活用し、HPに誘導するような仕組みづくりを構築していきたい。
改善の方向性	特になし。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	福山 康志

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	2	健康スポーツと生涯スポーツの推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	いつでも、どこでも、だれでも楽しむことができるスポーツ環境の充実		
実施事業	市民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施	継続	
主な財源 (千円)	歳入	交付金	500
	歳出	補助金	1,000

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	誰もが気軽に参加しスポーツを体験できる機会としての「スポーツフェスティバル」についての市民の認知度を高め、市の恒例行事として定着することで、より多くの市民参加が得られるイベントとなることが望まれる。
改善の方向性	青少年層の参加者増に焦点を当て、内容を検討するとともに、学校との連携も図りつつ広報を強化する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	市民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施
取組内容(活動指標)	第3回湖南省スポーツフェスティバルの実施。
目標(数値目標)	誰もが気軽に参加でき、スポーツを体験できる市民スポーツフェスティバルをスポーツ関係団体や健康づくり推進協議会と連携することで、1,000人の参加を目標とする。
達成効果(成果指標)	誰もが気軽にスポーツに参画できる機会づくりを提供することができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	市民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施
実施内容(進捗実績)	人生100年時代と言われる今、健康寿命を延ばす取り組みを進めており、健康的な食事と運動を楽しいものとするために、今年から3年間、食とスポーツをテーマに、国の交付金を活用し、10月20日に開催される「スポーツフェスティバル×健康まつり」としてスポーツ協会、スポーツ推進員、健康づくり推進協議会、地域創生推進課、健康政策課と連携して盛り上げる。内容としては、スポーツの部で山中慎介さんなどのスペシャルゲストによる教室プログラムやスポーツ推進委員による親子ふれあいリズム体操やニュースポーツ的当てチャレンジ。健康の部で骨密度測定などのからだの測定コーナーや野菜ソムリエと一緒に親子でクッキングなどの体験コーナーを設ける。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
市民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施	スポーツフェスティバル×健康まつりでは1,790人の方に参加頂いた。(スポーツフェスティバル単体では914人。で前年度888人3%程度増加)	A ⊙ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	時間帯により実施エリアで人数の偏りが生じていたので、十分な分析を行い、来年度事業に活かす。
改善の方向性	子ども向けの教室プログラムは親が見ているだけになるので親も参加できるようにする等工夫し、誰もが楽しめるようにする。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	福山 康志

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	2	健康スポーツと生涯スポーツの推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	自然、歴史、文化、地域福祉を活かしたスポーツの促進	
実施事業	障がい者スポーツ団体との連携、支援	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	人件費 300

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	引き続き、継続した取り組みが必要である。
改善の方向性	特になし

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	障がい者スポーツ団体との連携、支援
取組内容(活動指標)	障がい者スポーツ団体との連携、支援
目標(数値目標)	湖南省体育協会、総合型地域スポーツクラブ「ちよいスポクラブ」、スポーツ推進委員などに働きかけ、年間4回以上、障がい者スポーツ大会の運営に参画する。
達成効果(成果指標)	各スポーツ団体が障がいのある人のスポーツ活動に理解を深めることにより、定期的なスポーツ機会の充実につなげることができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	障がい者スポーツ団体との連携、支援
実施内容(進捗実績)	障がい者スポーツの振興を目的とした、第5回こなん交流いきいき風船バレーボール大会、第6回スペシャルオリンピックスにスポーツ推進委員、ちよいスポクラブ部員、スポーツ協会役員、事務局が運営スタッフおよびチームとして参画した。また、スポーツ協会の障がい者スポーツ部の活動として、ポッチャの練習会や大会を開催し、障がい者スポーツ団体との連携、支援を図っている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
障がい者スポーツ団体との連携、支援	5回の大会等に参画した。①「いきいき風船バレーボール大会」(5/19)にスポーツ推進委員、ちよいスポクラブ部員、スポーツ協会部員がスタッフ、選手として参画した。②ポッチャ大会1(7/14)には、スポーツ協会役員、事務局が参画した。③ポッチャ大会2(8/18)には、スポーツ協会役員、事務局が参画した。④ポッチャ大会ファイナル(9/8)には、スポーツ協会役員、事務局が参画した。⑤スポーツ吹き矢大会(1/19)にはスポーツ協会部員がスタッフとして参画した。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	引き続き継続した取組が必要であり、またニュースポーツの実施機会を拡充していく。
改善の方向性	特になし



## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	堤 治美、眞田 茂樹

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	3	地域の歴史文化の保存と活用

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	歴史文化遺産の保存と活用	
実施事業	文化財講座の実施	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	5

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	郷土の歴史や文化財を知る市民を増やすためには講座の継続実施が必要であり、今後とも文化財調査を実施していく体制づくりの構築が必要である。
改善の方向性	文化財調査の成果により、新たな切り口で湖南省の文化財を紹介していく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	文化財講座の実施
取組内容(活動指標)	文化財調査によって得られた成果や湖南省の歴史を紹介する文化財講座を実施し、受講者数増に向けて広報の工夫などに取り組む。
目標(数値目標)	文化財講座については、昨年度と同様に6月から毎月1回のペースで実施し、受講者数(平成30年度244人)の前年度比1%増を目指す。
達成効果(成果指標)	市民が郷土の歴史や文化財について知ることによって、地域の伝統や文化、文化財を大切にする意識が高まる。また、まちづくりに活用しようとする市民が増えることが期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	文化財講座の実施
実施内容(進捗実績)	初級編として文化財講座「湖南省の歴史講座」を6月から毎月1回のペースで4回開催し、10月にも開催の予定をしている。受講者は延べ80名で、前年度とほぼ同じだった。石部老人福祉センターと連携して広報活動に取り組むとともに、受講者に次回の講座内容を事前に伝えるなど工夫をした。講座の方法については検討が必要である。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
文化財講座の実施	6月から10月まで文化財講座を実施し、受講者数は延べ101人だった。	A B <b>C</b> D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	郷土の歴史や文化財を知り愛着を持ってもらう市民を増やすためには講座の継続実施や地域との連携も必要。
改善の方向性	文化財の活用も含め、現地を会場とすることも視野に入れて講座を実施する。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	堤 治美、眞田 茂樹

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	3	地域の歴史文化の保存と活用

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	地域文化の市内外への周知		
実施事業	文化財展の開催	継続	
主な財源 (千円)	歳入	歴史民俗資料館入館料	246
	歳出	報償費、需用費、委託料、指定管理料	1,261

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民が地域の歴史や文化を知り、親しむ機会をより充実させることが必要である。
改善の方向性	文化財展の実施については、取り組みを継続すると共に、市民が地域の歴史や文化を知り、親しむ機会が充実するように引き続き検討していく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	文化財展の開催
取組内容(活動指標)	歴史ある市の魅力を発信する手段のひとつとして、東海道石部宿歴史民俗資料館を中心に文化財展を開催し、文化財調査によって得られた成果や、館所蔵品の紹介等を行う。
目標(数値目標)	東海道石部宿歴史民俗資料館では、2か月に1回のペースで特集展示を開催し、入館者数の前年度比50人増を目指す。
達成効果(成果指標)	市民が文化財について親しむ機会の充実を図ることで、文化財を大切にする意識が高まることが期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	文化財展の実施
実施内容(進捗実績)	3月2日から5月5日まで「館所蔵品展」、5月18日から6月30日まで「湖南省の遺跡展part2」を実施した。7月から特集展示を見送っている状況だが、今後は10月19日の石部宿場まつりや1月26日の文化財防火デーに合わせて展示をしていきたい。展示内容について、資料館や人員の規模に見合った方法を検討する必要がある。入館者数は9月末で606人であり、昨年度の同時期と比較して6人増えている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
文化財展の実施	文化財展は年3回特集展示を実施をした。入館者数は2月末時点で1,063人(昨年度1,228人)と減少している。	A B <b>C</b> D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	湖南省の歴史や文化財を周知し、親んでもらうために、より効果的な方法を模索する必要がある。
改善の方向性	文化財展の実施は継続していくほか湖南省のホームページの活用も検討する。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	堤 治美、眞田 茂樹

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	2	いつでもどこでも学べる環境を創る
施策	4	新たな市民文化が育つ環境の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	市民との協働、市民への支援による文化の振興		
実施事業	市美術展の開催と支援 市文化祭の開催と支援	継続	
主な財源 (千円)	歳入	市美術展出品料	101
	歳出	人件費、委託料、補助金	1,150

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民との協働による美術展や文化祭を開催していくためには、美術展実行委員会委員の確保や文化協会とのよりよい連携を図っていくことが必要である。また、広報や内容を含め市民の関心を高める工夫も引き続き必要である。また、美術展では部門ごとの展示で不公平感が出ないように展示方法等を再考する必要がある。
改善の方向性	美術展実行委員については実行委員8名の確保に努める。また、文化祭については文化協会とのさらなる連携に努める。実行委員会等で市民の関心を高められる方策を協議し実施に向けて検討するとともに広報に努める。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	市美術展の開催と支援
取組内容(活動指標)	市美術展実行委員会に委託し、美術展を開催する。
目標(数値目標)	市美術展では展示会の認知度と必要性をさらに高めるよう取り組む。出展数、展覧者数とも前年度比5%増加させる。展示については配置等を考え、出品された作品をすべて展示できるようにする。
達成効果(成果指標)	美術展をより知ってもらい、出展者や出品数、展覧者を増やすことで、市民の創作意欲の向上につながるるとともに、レベルの高い作品を鑑賞できる美術展となる。
実施事業	市文化祭の開催と支援
取組内容(活動指標)	市文化協会に委託し文化祭を開催する。運営については文化協会の会員と連携しながら、より市民に親しまれる文化祭になるよう開催方法を検討する
目標(数値目標)	市文化祭では開催の認知度と必要性をさらに高めるとともに、文化協会の認知度を高める。出展数、出演者数とも前年度比5%増加させる。
達成効果(成果指標)	毎年の課題の変化に合わせて運営内容の改善をはかることで、文化協会への加入増が期待できるとともに、文化芸術活動に親しむ市民が増加する。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	市美術展の開催と支援
実施内容(進捗実績)	2月8日から16日までの開催に向けて第1回実行委員会を開催(8/29)し、募集要項等の開催準備を進めている。個別に連絡をとっているものの写真の部の実行委員の引き受け手がおらず、写真部門を他の委員の協力で進めていくことになっていることが課題である。
実施事業	市文化祭の開催と支援
実施内容(進捗実績)	11月3日、4日の文化祭開催に向けて毎月実行委員会および文化協会常任理事会を開催し、準備を進めている。9月5日まで公演部、9月9日まで展示部の参加者を受付け、公演部は44団体、展示部は14団体の出演を予定している(前年度公演部44団体、展示部15団体の出演)。今年度は文化祭参加団体から1名を実行委員として選出していただき、最初からすべての参加者に文化祭の運営に関わってもらうようにしている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
市美術展の開催と支援	来年度は昨年度(1,233名)より減少(1,207名)した。出展数は昨年度まで一人2点だったところを立体・工芸部門を除き、一人1点までとしたため、昨年度(256作品)より減少(181作品)した。	A (B) C D
市文化祭の開催と支援	出展点数は昨年度(450点)から減少(350点)し、出演者は昨年度(445名)から(461名)へと増加した。また、友好交流締結をしている北栄町からも8点の作品を出品していただいた。	A B (C) D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	市民との協働による美術展や文化祭を開催していくためには実行委員の確保が重要である。文化祭については、委託している文化協会の事務局が令和2年度から指定管理者に移るので、支援方法を再考する必要がある。
改善の方向性	美術展実行委員については実行委員8名の確保に努めるとともに、市民の関心を高められる方策を協議し広報に努める。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	山川 眞智子、小林 直登

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	3	家庭の教育力を高める
施策	1	家庭の教育力の向上

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	親育ての場の提供と人材の育成	
実施事業	子育てサポーターの育成と親育ての活動	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	報償費 140

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	子ども政策課が行う地域子育て支援拠点事業である親子プレイステーションに子育てサポーターが関わるにあたり、サポーターのスキルアップを図り、新規のサポーターの育成をする必要がある。
改善の方向性	子育てサポーター研修会や家庭教育講座などスキルアップの機会を実施し、関連情報を提供していく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	子育てサポーターの育成と親育ての活動
取組内容(活動指標)	子育てサポーター養成講座の実施
目標(数値目標)	新規の子育てサポーターを1人増やす
達成効果(成果指標)	親子プレイステーションの意義を理解し、親育ての活動に参画するサポーターが増えることで、地域に親育て・子育て支援の輪が広がり、家庭教育力の向上につながる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	子育てサポーターの育成と親育ての活動の支援
実施内容(進捗実績)	子育てサポーター会議において、必要な知識と共通認識しておきたい講座を検討し、子育てサポーター養成講座(子育てサポーター研修会を兼ねる)を全3回開催した。第1回は5月30日、第2回は6月4日、第3回は6月11日に開催し、参加者5人全員が全課程を修了された。そのうち3人が子育てサポーターとして活動することを希望されたので、7月から新たに子育てサポーターに委嘱した。現在委嘱している子育てサポーターはこれまでの12人に今回の3人を加え、15人となった。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
子育てサポーターの育成と親育ての活動の支援	子育てサポーター会議において、必要な知識と共通認識しておきたい講座を検討し、子育てサポーター研修を兼ねた子育てサポーター養成講座を実施した(サポーターの延べ出席者8人)。また、家庭教育講座4講座のうち2講座を子育てサポーターが講師(2人)および講座支援(6人)を務め実施した。今年度新たにサポーターとなった3人のうち2人が次年度への継続はされなかった。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	新しい世代の子育てサポーターの定着および子育てサポーターの活用が進んでいない。
改善の方向性	子育てサポーターの活用や活躍の場として、例えば、家庭教育講座の企画・運営を担うなど培ってきた知識や技術を発揮する場を摸索し、提供していく。



## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	山川 真智子、小林 直登

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	3	家庭の教育力を高める
施策	1	家庭の教育力の向上

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	基本的な生活習慣を身につけるための取組	
実施事業	各団体と連携による取組の充実	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	子どもが基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて保護者が認識を深めるために、生涯学習課が関わるPTA常任委員会や青少年市民会議の役員だけでなく、市役所内関係各課および市内全域の子どもに関わる団体や大人に推進する必要がある。
改善の方向性	平成27年度に社会教育委員会議で作成された生活習慣パンフレットについて、市役所内関係各課に活用を呼び掛けを行うなどして有効な活用に努める。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	各団体と連携による取組の充実
取組内容(活動指標)	PTAなどの団体と連携し、子どもが基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、生活習慣パンフレットを活用するなどして保護者への啓発を継続する。
目標(数値目標)	保護者への啓発の結果、毎日朝食を食べる児童生徒の割合の前年度比増を目指す。
達成効果(成果指標)	保護者への啓発を通じて、基本的な生活習慣を身に付ける子どもが増えることが期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	各団体と連携による取組の充実
実施内容(進捗実績)	家庭教育講座の参加者に対し、パンフレットの説明と配布をした(親子13組)。また、9月から、親子プレーステーション(毎週月曜日、第1土曜日)でも配置している。 課名等の変更により、パンフレットの内容を手作業で修正をしているため、多くのパンフレットを配布することができないのが課題であるが、少ない配布でも効果的な啓発となるよう対象を絞っている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
各団体と連携による取組の充実	子育て世代の手に渡るよう、家庭教育講座や親子プレーステーションで配布、配置を行った。また、要請があれば必要とする団体に配布を行った。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	課名等の変更により、パンフレットの内容を手作業で修正をしているため、多くのパンフレットを配布することができないのが課題である。
改善の方向性	少ない配布でも効果的な啓発となるよう対象を絞ったり、要請に応じる形で啓発していく。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	山川 眞智子、小林 直登

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	3	家庭の教育力を高める
施策	2	青少年の交流と活動の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	青少年の体験的活動機会の充実と社会参加の促進		
実施事業	関係団体との連携等による体験活動機会の充実	継続	
	リーダー育成機会の充実	継続	
主な財源 (千円)	歳入	交付金、基金繰入金	1,237
	歳出	人件費、旅費、通行料、委託料、補助金	5,520

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	各種団体や地域が青少年の体験的活動機会の必要性を認識し、取り組むことが必要である。また、リーダー育成については、自主性を高める工夫を継続するとともに、事業がよりよい内容になるよう募集等にあたって配慮が必要なものもある。
改善の方向性	各種団体や地域に対して青少年の体験的活動機会の充実に向けての働きかけを継続して行う。また、成人式実行委員については、市内全域から集められるよう配慮する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	関係団体との連携等による体験活動機会の充実
取組内容(活動指標)	各種青少年団体の育成支援と、青少年育成市民会議・学区民会議をはじめとする青少年に関わる各種団体へ情報提供や助言等の支援を通じて、体験活動機会の充実に努める。
目標(数値目標)	各種団体による体験活動機会回数が、前年度同数またはそれ以上となるようにする。
達成効果(成果指標)	青少年が、体験的活動に参加し地域住民と交流することを通じて、自立性と社会性を養うことに結びつく。また、将来の活気あふれるまちづくりにつながることが期待できる。
実施事業	リーダー育成機会の充実
取組内容(活動指標)	中学生の実行委員による「青少年育成大会」、新成人の実行委員による「成人式」、北栄町との子ども交流事業を実施する。
目標(数値目標)	「青少年育成大会」実行委員については8～10人程度、「成人式」実行委員については8人程度(各中学校区2人)、北栄町との子ども交流事業については10人程度、事業を行ううえで適切な人数を確保する。まずは、応募者の積極性を評価し、一つの事業をつくりあげていく過程において、各人がもつ力を発揮でき、自信と充実感、達成感に結びつくよう適切な後方支援を行い、実行委員などの主体的な取組により、目的に沿って事業を開催する。
達成効果(成果指標)	市の事業にリーダー的に参画する機会を与え、地域においてリーダーとしての体験を行うことで、リーダー的人材が育つ。家庭においては、体験自体が成功・失敗であったとしても、次のチャレンジへとつながり、将来のまちづくりを支える人材となることが期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	関係団体との連携等による体験活動機会の充実
実施内容(進捗実績)	各種青少年育成団体へは補助金交付や情報提供等を通じて支援を図っている。青少年育成市民会議・学区民会議では定期的に役員会・理事会を開催し、体験活動の必要性や情報共有を図りつつ、各学区民会議が年間計画により体験活動を実施している。昨年度の同時期は14件実施しており、今年度については20件実施している
実施事業	リーダー育成機会の充実
実施内容(進捗実績)	青春祭(青少年育成大会・12/1開催予定)の実行委員は10人が集まり、9月末までに実行委員会を3回開催した。成人式(1/12開催予定)の実行委員は6人が集まり、10月9日に第1回実行委員会を開催する予定となっている。北栄町との子ども交流事業については、子ども6人、リーダー3人が集まり、7月7日の事前研修を経て、8月3～4日に初めて湖南市に北栄町の子どもたち10人をお迎えし、本研修を実施しました。その後、9月8日に事後研修を実施し、思い出マップ作りをした。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
関係団体との連携等による体験活動機会の充実	各種青少年育成団体へは、補助金交付や情報提供等を通じて支援を行った。青少年育成市民会議・学区民会議では、定期的に役員会・理事会を開催し体験活動の必要性や情報共有を図りつつ、市民会議と8つの学区民会議では、年間計33回の体験活動機会となる事業を実施した。	A (B) C D
リーダー育成機会の充実	「青少年育成大会」実行委員については、中学生10人が全9回の実行委員会を通して企画運営に関わった。12/1当日は参加者361人の前で司会進行および実行委員企画の発表を行った。実行委員アンケートでは、「地域の人とふれあえるという意味でもよかった。」「やり遂げられて達成感があった。」等の感想が寄せられた。 「成人式」実行委員については、最終的には新成人11人が全7回の実行委員会を実施し企画運営に関わった。自主性を高めるために、会議の進行を実行委員に任せた。1/12当日は式典等参加者454人の前で司会進行および実行委員企画を行った。実行委員アンケートでは、「一生に一度しかない成人式の実行委員をすることができて、とても達成感があった。」などの意見が上がった。 「北栄町との子ども交流事業」については、児童・生徒6人、リーダー3人が参加した。事前研修、本研修(北栄町迎え入れ)、事後研修を実施した。事後研修では、青少年育成大会における活動発表展示物を作成した。参加者へのアンケートでは、「いろんな人と仲良く行動できた。」「カレー作りをみんなで協力して作って食べたのが楽しかった」などの意見が寄せられた。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	各種団体や地域が青少年の体験的活動機会の必要性を認識し、取り組むことが重要である。また、リーダー育成については、自主性を高める工夫を継続するとともに、事業がよりよい内容になるよう募集等にあたって配慮が必要なものもある。
改善の方向性	各種団体や地域に対して青少年の体験的活動機会の充実に向けての働きかけを継続して行う。また、成人式実行委員については、市内全域から集められるよう配慮する。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	稲塚 繁樹

## 1. 評価項目

基本的方向	1	社会全体で教育力の向上に取り組む
政策	3	家庭の教育力を高める
施策	3	青少年健全育成活動の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	関係機関と連携した活動実施と、課題をもつ少年の対策・居場所づくり		
実施事業	生活改善、就学、就労支援の充実	継続	
主な財源 (千円)	歳入	国・県支出金	3,753
	歳出	人件費 賃金 報償費 旅費 需用費 役務費 使用料及び賃借料 等	13,131

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	アルバイトを含め一旦就労することができても、短期間で行かなくなったり離転職を繰り返したりするケースが多く、支援の回数が増えている。少年の多くは、生活課題や発達課題を抱え生活しているものの、一般社会では理解されにくく、適応しにくい側面を持っている。また、進学しても1年次での中途退学や進路変更が圧倒的に多い。基盤となる家庭への支援が必要な場合もあり、総合的な支援体制の構築が必要となってくる。様々なタイプの少年が支援を求めており、これらに対応するため、少年たちの居場所づくりと各機関との連携を深め高度な支援を継続していかなければならない。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談業務のなかで、就労と就学に関わる相談がほとんどを占める。これらの実態から、生活改善を含む就労・就学支援プログラムをより充実させていくことが必要である。就労や就学に対して目的意識を持ち意欲を高めるとともに、様々な関係機関や関連施設とのネットワークの構築をすすめるなどして、さらに高度な支援を目指す。</li> <li>・早い段階から生活改善や非行防止を図るため、小学校や中学校への訪問により実態把握に努める。</li> <li>・居場所を無くしたり、生きにくさを抱えた少年たちの居場所づくりをする。</li> </ul>

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	生活改善、就学、就労支援の充実
取組内容(活動指標)	個々の少年に対応した支援プログラムを作成し、センター内外の人的・物的資源を有効活用した組織的で実効性のある具体的支援に取り組む。 関係機関との定期的あるいは随時の連絡会議やケース検討会など連携を深め、個々の目標達成を図るために有効な支援に取り組む。
目標(数値目標)	アセスメントシートに沿った個別支援プログラムの検討と支援活動により、総合的な支援を80%達成を目標に充実させる。 立ち直り支援に関わる保護者・関係機関との協働を通して、少年の生活改善・就学・就労での支援効果を上げていく。
達成効果(成果指標)	重篤な問題行動へと発展するまでに、適切な支援ができ犯罪等への未然防止ができる。 就学・就労の早期実現と継続により、課題を抱える少年たちが社会的に自立し、将来的にも前向きに生きていく意欲と自信を持つことができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	生活改善、就学、就労支援の充実
実施内容(進捗実績)	<p>9月現在、あずくる支援では、昨年度より継続支援少年と新規支援少年合わせて10人の少年の支援をしている。そのうち3名の少年は、生活環境や進路変更に伴い、再度支援方策の検討を行い支援内容の変更を行った。また、学校や甲賀警察署とも連携し、高校3年生1人、中学3年生1人を加え支援を継続している。10月よりは中学3年生1人を加え自分探しプログラムや進路支援を行っていく。無職少年対策として、6名の少年の支援をした。1人の少年については、現在のところ就労支援中。その他1人については、継続支援。その他については、就労またはアルバイトに就いている。アセスメントシートに沿った支援の80%を達成中である。</p> <p>さらに、少年センターでは、就労や就学支援とともに自分探しや居場所づくりが重要だと考えセンター経営を進めていく。少年によっては、高度な支援が必要な場合もあり、他市の少年センターとの連携や学校・関係機関と連携をすすめ、きめ細かな支援に生かしていく。現在ケース検討会議実施は2人となっている。</p>

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
生活改善、就学、就労支援の充実	<p>年度末までに11名の少年を支援した。そのうち、就学・就労を重点として支援した少年7名については、本年度目標としていた個々の支援プログラムが完結したので支援終了。他の4名の少年は、次年度も支援を継続していくが、本年度中の個別支援目標は、ほぼ達成している。</p>	(A) B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	<p>本年度、進学や就職に関して一定の成果があり、7名を支援終了とした。しかし、支援終了をしたから直ちに支援を打ち切るのではなく、少年たちが社会に適応し生活していけるように、一定の期間を見守っていくことが支援を完了するうえで大切だと考える。順調に社会生活が営めるような、社会面での支援の方策を検討していくことが必要となる。</p>
改善の方向性	<p>社会面での支援として、「対人スキルの方法」「感情のコントロール」「対人マナー」「問題解決の能力」「想像力」などの力をつけることが求められる。どれも社会生活には欠かせない能力である。これらを主たる目標達成への支援プログラムに加味しながら取り組むことで、社会生活への適応能力を高める。</p>

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦 加代子
担当者	藪下 和彦

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	1	問題解決能力の育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	「鍛える学校文化」の醸成		
実施事業	学習の基礎力を重視した各学校における共通実践	継続	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	全国学力・学習状況調査において全国との平均値に迫りつつあるが越えてはいない。
改善の方向性	子どもの夢と志を育てるために特に必要となる基礎基本の部分(A問題)について改善する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	学習の基礎力を重視した各学校における共通実践
取組内容(活動指標)	「我が校は〇〇で△△の力を学力保障する」という取組課題を各校が設定する。
目標(数値目標)	「知識」の定着状況を問うA問題(*B問題はその「活用」)については全国平均に近づける。
達成効果(成果指標)	A問題についての結果が上昇すると、授業の中の「ふりかえり」を書く力も向上する。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	学習の基礎力を重視した各学校における共通実践
実施内容(進捗実績)	<p>小学校・中学校ともに、国語は、昨年度と比べて全国平均との差が広がる結果となった。中学校では、「話すこと・聞くこと」および「読むこと」について全国との差がやや広がった。算数・数学は、小学校・中学校ともに全国平均との差が縮まった。英語については、全国平均との差は2ポイントの差であった。「聞くこと」については、全国平均との差は-4.2ポイントであったが、「書くこと」については、全国平均を0.7ポイント上回った。問題形式の正答率は、国語(小・中学校)および数学、英語については、記述式の正答率の全校平均との差は、選択式、短答式と比較し大きな差はない。しかし、無答率は依然として高い。中学校の自尊感情について、肯定的な回答が伸びている。全国平均と比較してもその差はわずかであり、本市の目指す「生きる力の根っこ」=自尊感情を育みつつあるといえる。家庭学習についても改善が見られた。小学校・中学校ともに学習時間が伸び、計画を立て勉強をしている児童・生徒が増えた。児童・生徒の学ぶ意欲ややる気の高まりを大切にするとともに、「できた」「わかった」喜びのある授業の創造を学校全体で進めることで、「楽しくて力のつく湖南市教育」の具現化を図る必要がある。</p>

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
学習の基礎力を重視した各学校における共通実践	<p>「言語活動の実施状況や課題について全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか」「近隣等の小中学校と教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか」の学校質問紙について目標値を超える取組がなされた。</p>	A ⊖ C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	<p>共通理解や情報共有等についての取組は進んでいるものの、全国学力学習状況調査においては、国語科について小中学校ともに全国平均との差が広がる結果となっている。</p>
改善の方向性	<p>児童生徒がなにを学んだのか自覚したり習得したりする「まとめ」の充実を図るとともに、各校における校内研究の充実を図る。</p>



## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦 加代子
担当者	藪下 和彦

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	1	問題解決能力の育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	「楽しくて力がつく湖南省教育」の実現	
実施事業	「楽しくて力がつく湖南省教育」の授業実践	継続
主な財源 (千円)	歳入	なし
	歳出	報償費(謝礼)
		0
		300

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	「授業の湖南省スタイル」の周知は図れたが、日々の授業で十分、意識できていない教員もいる。
改善の方向性	自尊感情の向上という成果を示し、授業改善の必要性について学校へ提示する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	「楽しくて力がつく湖南省教育」の授業実践
取組内容(活動指標)	「楽しくて力がつく湖南省教育」の実現に向け、一人ひとりの教職員が「学力保障」が湖南省の喫緊の課題であることを認識し、授業改善(授業の湖南省スタイルの定着)、読書活動の推進、立腰教育の推進、家庭学習の充実について、中学校区が連携し、その推進を図る。
目標(数値目標)	全教職員が「授業の湖南省スタイル」で授業をする。
達成効果(成果指標)	教職員の授業力を向上させ、授業改善を進めることにより、子どもたちの自尊感情が向上することによって、主体的に学ぼうとする意欲が高まり学力向上が実現する。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	「楽しくて力のつく湖南省教育」の授業実践
実施内容(進捗実績)	市内全学校において、授業の湖南省スタイルによる授業改善を推進。多数の小学校において「授業の湖南省(〇〇小)スタイル」の定着により、全クラスで安定した授業を進めることができてい る。今後は、「授業の湖南省スタイル」のまとめの時間を確保するとともに、ガッテンプリントや演 習等でしっかりと基礎・基本の力を定着させることが重要である。 まとめの時間を確保するためには、導入をコンパクトにしたり、必然性や目的のある交流や書く 活動を設定したりする必要がある。言語活動の充実を図ることを大切にしつつ、単元のまとまりの 中で授業展開を工夫することが求められる。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
「楽しくて力のつく湖南省教育」の 授業実践	「授業の湖南省スタイル」について、小中学校とも肯定的な回答が7割~9 割であり、市全体で定着している。今年度の取組の重点である「まとめ」 の時間の確保については、小学校が中学校に比べて肯定的な回答が低い。	A <b>B</b> C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	今年度の取組の重点である「まとめ」の時間の確保については、中学校が肯定的な回答が82%であ り、小学校が75%である。小学校において、さらなる改善を図る必要がある。
改善の方向性	今年度は、「めあて」と「まとめ」の整合性のある授業づくりを取組の重点に掲げ、取組を進めてい たが、まずは、「まとめ」の時間を全市で確保する。また、授業の質を高める方策である「めあて」 と「まとめ」の整合性のある授業づくりについては、ワーキンググループが研究・実践を進めてい く。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦加代子
担当者	松山 妙子

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	1	問題解決能力の育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	語彙の量と言語の質を高める取組		
実施事業	「ことばの宝石箱」の取組		継続
	「湖南省の小さな詩人たち事業」の取組		継続
主な財源 (千円)	歳入	寄付金	50
	歳出	報償費(謝礼、副賞)、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費	668

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	「ことばの宝石箱」の活用について、学校によって取組推進の状況に差があるので、より積極的に活用して暗誦や音読に取り組む必要がある。
改善の方向性	国語科主任会で活用状況や取組の成果について交流し、積極的に推進している学校の取組について、教育だよりや校長会等で発信し広めていく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	「ことばの宝石箱」の取組
取組内容(活動指標)	音読集「ことばの宝石箱」(平成28年改訂)を、市内小学校3年生に配布・活用。
目標(数値目標)	各校で、「ことばの宝石箱」を使って暗唱・音読・群読などを行い、多くの作品に出会う。
達成効果(成果指標)	この事業を通して、市内の児童生徒に豊かな言語力や、表現力を養うことができる。
実施事業	「湖南省の小さな詩人たち事業」の取組
取組内容(活動指標)	第12回目の事業で詩や五・七・五部門において、作品募集、審査、表彰を行う。
目標(数値目標)	「湖南省の小さな詩人たち事業」では、日頃の学習を生かし、詩や五・七・五部門に応募することで表現力を鍛える。
達成効果(成果指標)	この事業を通して、市内の児童生徒に豊かな言語力や、表現力を養うことができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	「ことばの宝石箱」「湖南省小さな詩人たち事業」の取組
実施内容(進捗実績)	国語主任会で「ことばの宝石箱」の活用について交流することで、暗誦や音読などへの取組の意識を高められるようにした。暗誦を達成した子どもに「こころの賞状」を活用して表彰することにより、子どもが意欲的に取り組めるよう、各学校長に「心の賞状」を配付し活用を呼びかけた。「湖南省の小さな詩人たち事業」では、現在各校で作品づくりに取り組んでいるところである。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
「ことばの宝石箱」「湖南省小さな詩人たち事業」の取組	「湖南省の小さな詩人たち事業」では、市内全ての小中学校児童生徒が作品作りに取り組み応募することで表現力を鍛えることができた。作品発表の場では、「ことばの宝石箱」の活用を通して培った暗唱力を発揮する姿が見られた。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	「ことばの宝石箱」の活用については、国語主任会で活用状況を交流したり、校長会で「こころの賞状」を配付して取組推進を呼びかけたりしたが、以前学校間で取組状況に差が見受けられる。
改善の方向性	継続した取組で成果を上げている学校について国語主任会や校長会で取り上げることで、さらなる普及を図る。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦 加代子
担当者	山中 和香

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	2	仲間と共に切り拓く力の育成・特別支援教育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	インクルーシブ教育を実現するための特別支援教育体制整備		
実施事業	専門家チーム会議による事例検討 巡回相談の実施・担当者会議の活用 特別支援教育コーディネーター連絡会の実施 個別の指導計画、支援移行計画による合理的配慮の提供と引継ぎ きめ細やかな湖南省就学支援委員会の実施	継続	
主な財源 (千円)	歳入	国庫補助金	526
	歳出	報償費、需用費、役務費、備品購入費	1,585

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	個別の指導計画・教育支援計画に記載する内容のさらなる充実と活用。放課後等デイサービスなど児童生徒の利用する福祉サービスとの連携。
改善の方向性	理解を図るための情報を伝えたり、共通理解を図ったりするための研修会を実施するとともに、アセスメントに基づいた支援の充実と切れ目ない支援を行うための体制整備を行う。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	専門家チーム会議による事例検討
取組内容(活動指標)	専門家による事例検討会議を定期開催する。医療との連携が必要なケースについて事例検討し、各機関の専門性の維持・向上に資するとともに、緊急を要するケースにも迅速に対応できるようにする。
目標(数値目標)	医療に関わる事例検討や情報交換により、緊急を要するケースや他機関との連携が不可欠なケースの改善を目指す。各機関の専門性の維持・向上のため、アセスメントについての研修を深めて各機関の専門性の向上を図るとともに、インクルーシブ教育システム構築について検証するなど、市の特別支援教育全体の推進を図る。
達成効果(成果指標)	年間6回の専門家チーム会議、巡回相談担当者会議への医師の参加により、医療に関わる事例や、環境要因と障がい特性との相互作用に関わる事例などについても検討し、支援の方向性や具体について明らかにする。またインクルーシブ教育の視点から、個別の指導計画の作成や評価についてのスーパーバイズを行い、保護者本人参画で作成する指導計画の充実を図る。
実施事業	巡回相談の実施・担当者会議の活用
取組内容(活動指標)	各校園における参観、諸検査の実施、校園担当者や保護者との面談を通して、個別指導計画の作成、活用、評価についてのサポートや、合理的配慮の検討、指導改善、就学について助言を行う。
目標(数値目標)	参観、諸検査実施、保護者や学校担当者などとの面談を通して、児童生徒のアセスメント向上や個別指導計画への反映、合理的配慮の決定や授業改善を図る。
達成効果(成果指標)	巡回相談を経て、ことばの教室通級、ふれあい教育相談室通級、就学支援などへつなぐ視点にたち、個別の指導計画の作成に対する保護者同意を高める。 巡回相談担当者会議への隔月での医師参加により、医療的介入が必要なケースへの迅速な対応を図る。

実施事業	特別支援教育コーディネーター連絡会の実施
取組内容(活動指標)	市の特別支援教育の推進に向けて、具体的な取組を進めるための共通理解の場とする。情報交換の機会や関係機関からの研修の機会も持てるよう計画的に運営する。
目 標(数値目標)	中学校区での情報交換を重視し、一体となって取り組む体制を作る。
達成効果(成果指標)	共通理解する内容、機関からの研修、中学校区での情報交換を設け、推進上の課題を検討する。同僚性を活かして事例から学ぶ機会を設けることで、コーディネーターの力量を高め、取組の一体化を図る。
実施事業	個別の指導計画、支援移行計画による合理的配慮の提供と引継ぎ
取組内容(活動指標)	園と小学校、小学校と中学校といった校種間での引継ぎは、個別の事例、学校園体制の双方について引継ぎを行う。中学卒業時には個別の支援移行計画で進路先へ引き継ぐ。保護者への指導計画提供により、課題に対して役割分担して取り組むなど学校園と家庭が協働して子どもの発達支援を行う。
目 標(数値目標)	個別の指導計画を確実に引き継ぐことで、進級や進学後の支援に円滑に移行できるようにする。保護者(本人)の教育的ニーズを反映して作成し、懇談の際に説明しながら提供するなど、慎重かつ滞りなく提供する。
達成効果(成果指標)	保護者を交えた懇談での活用状況を把握する。活用できた例や引き継ぎが活きた例などを、研修の機会に紹介することで、保護者との連携体制の強化を図ると共に、教育効果を上げる。
実施事業	きめ細やかな湖南市就学支援委員会の実施
取組内容(活動指標)	関係機関からの情報、園での具体的な支援情報を基に、就学相談を進める。その際、個の特性に応じた支援のあり方について、専門チーム会議、巡回相談、校園内委員会の連携をベースに、保護者との話し合いを持ちながら総合的な見地から判断する。
目 標(数値目標)	個々の児童生徒の教育的ニーズに基づく支援や指導について示すとともに、保護者への情報提供を行い、最もニーズに応じることのできる学びの場について、保護者と建設的対話により検討する。
達成効果(成果指標)	児童生徒のアセスメントを共有し、就学先などについて情報提供をきめ細やかに行い保護者との合意形成を継続的に図る。 就学後も継続して状況を把握し、必要に応じて就学について検討し、最も望ましい学びの場を活用して指導が受けられるようにする。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	専門家チーム会議による事例検討
実施内容(進捗実績)	医療的な対応が必要と考えられるケースを中心として、事例を持ち寄り検討を行っている。医療へのつながりをスムーズに行うための事前検討や、医療の立場からの助言が必要なケース検討が中心である。インクルーシブ教育モデルスクール事業への検証は後期を中心として行う予定。2ヶ月に1回実施。(5月14日、7月9日、9月24日に実施)
実施事業	巡回相談の実施・担当者会議の活用
実施内容(進捗実績)	昨年度から市内各中学校区に1名ずつ巡回相談担当が配置されるようになり、よりきめ細かい相談業務が可能となった。 毎月1回担当者会議を開催することで、連携を密に図っている。(5月21日、6月11日、7月16日、8月27日、9月24日に実施)
実施事業	特別支援教育コーディネーター連絡会の実施
実施内容(進捗実績)	保幼小中を1回、小中を2回開催し、個別の指導計画(合理的配慮)について、就学支援についてなど、市内の特別支援教育推進に関わる内容を取り上げ全体で確認している。また、中学校区での情報交換の場も確保してきた。福祉的な視点の研修会にも参加し、市内全体のレベルアップを図っている。
実施事業	個別の指導計画、支援移行計画による合理的配慮の提供と引継ぎ
実施内容(進捗実績)	個別の指導計画の内容充実に向けて、巡回相談担当者や学校教育課担当者が各学校に助言するなどの取組を進めている。研修会や校舎長会、コーディネーター会議などで個別の指導計画の作成と活用について再確認を行った。
実施事業	きめ細やかな湖南市就学支援委員会の実施
実施内容(進捗実績)	就学先決定に向けて計画的に相談を繰り返してきた。取組の中に、就学予定先の見学・体験を位置づけたり、進路選択などニーズに応じた説明をしたりしながら、保護者との合意形成を図っている。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
専門家チーム会議による事例検討	計画通り2ヶ月に1回実施。医療的な対応が必要と考えられるケースを中心として、専門家による検討が必要な事例を持ち寄り会議を行った。必要なケースについては医療にスムーズにつなぐことができた。また、医師のアドバイスを専門機関や学校での指導に活かすこともできている。	Ⓐ B C D
巡回相談の実施・担当者会議の活用	毎月1回会議を開催。校内支援委員会の検討を経て巡回相談につながるケース、担当から直接連絡があるケースなどについて、対応に関する検討を行い支援に生かすことができた。情報共有をすることで、巡回相談担当、発達支援室、適応指導教室、家児相等で、密な連携が図れている。	Ⓐ B C D
特別支援教育コーディネーター連絡会の実施	計画通り保幼小中の連絡を2回、小中の連絡会を2回実施。個別の指導計画(合理的配慮)について、就学支援についてなど、市内の特別支援教育推進に関わる内容を取り上げて全体で確認をするとともに、中学校区での情報交換の場も確保してきた。特に、保幼小中が集まる会では情報交換の時間がとても有効であった。	Ⓐ B C D
個別の指導計画、支援移行計画による合理的配慮の提供と引継ぎ	特別支援学級の個別の教育支援計画作成を進めた。校園長会、コーディネーター会議などで個別の指導計画の作成について再確認を行ってきたが、記載内容について学校間で差がある現状がある。また、小学校から中学校への引継ぎを行っているものの、スムーズな移行にならないケースもある。	A Ⓑ C D
きめ細やかな湖南市就学支援委員会の実施	就学先決定に向けて計画的に相談を進めてきた。取組の中に、就学予定先の見学・体験を位置づけたり、進路選択などニーズに応じた説明をしたりしながら、保護者との合意形成を図った。必要なケースについて、関係機関と連携して丁寧に就学相談を進めることができた。ほぼ、希望や答申にあった進路を決定できた。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	就学支援における私立園との連携。 個別の指導計画・教育支援計画に記載する内容のさらなる充実と活用。 放課後等デイサービスなど児童生徒の利用する福祉サービスとの連携。
改善の方向性	理解を図るための情報を伝えたり、共通理解を図ったりするための研修会を実施するとともに、アセスメントに基づいた支援の充実と切れ目ない支援を行うための体制整備を引き続き行う。



## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦 加代子
担当者	山中 和香

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	2	仲間と共に切り拓く力の育成・特別支援教育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	湖南省ことばの教室の運営		
実施事業	湖南省ことばの教室の充実	継続	
主な財源 (千円)	歳入	国庫補助金	211
	歳出	賃金、報償費、旅費、需用費、備品購入費	11,858

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進、という理念に則り、個別の指導計画を軸とした根拠ある合理的配慮の提供と、個に応じた多様な学びの場の充実に継続して取り組む必要がある。
改善の方向性	特別支援教育の視点に立った授業に市内一体となって取り組むこと、特別支援学級での指導の充実、アセスメントに基づいた合理的配慮の決定と実施を行う。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	湖南省ことばの教室の充実
取組内容(活動指標)	通級生のアセスメントを立て、個別の指導に活かすとともに、集団生活や学習上の課題などに活かせる支援のあり方について、校園や保護者に情報提供を行う。市内の保育・教育関係者を対象とした研修会の開催、「湖南省読み書きチェック」を活用したスクリーニングによる支援を必要とする児童の早期発見に取り組む。 市内4中学校区のことばの教室が核となり、福祉部との連携も図りながらアセスメントの充実につながる巡回相談の活用や効果的な合理的配慮についての助言を行う。
目標(数値目標)	コミュニケーションの課題、学習上の課題などニーズのある児童生徒に、校園や保護者と連携した指導を行い、教育的ニーズに応える。 アセスメント情報を学校、園が活用できるように提供し、合理的配慮決定と内容の充実について助言し、合理的配慮が提供できるようにする。
達成効果(成果指標)	年間2回の園訪問、学校訪問による情報交換の他、湖南省ITネットワークを活用した日常の連携により、個別の支援、指導がアセスメントに基づいて行われる。 市内校園の個別の指導計画に、関係機関からのアセスメント情報が明記され、合理的配慮提供の根拠となる。また、個別の指導計画を保護者に年1回提供し、子どもの発達について支援者と保護者が協働して支援する。これらにより、支援を受ける主体者が力をつける。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	湖南省ことばの教室の充実
実施内容(進捗実績)	<p>6月に市内全校園を訪問。ことばの教室で作成した通級生の個別の指導計画を提供し情報交換を行った。指導員全員で支援検討会議を定期的に行い、アセスメントや支援方法について検討した。</p> <p>また、読み書きチェックの考察をもとに、市内小中学校の特別支援教育コーディネーター対象の研修を実施した。</p> <p>さらに、7月には市内幼小中学校教員を対象に、ことばの教室の指導内容や教材を紹介する体験会を実施した。</p>

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
湖南省ことばの教室の充実	<p>6月と11月に市内全校園を訪問。ことばの教室で作成した通級生の個別の指導計画を提供し情報交換を行った。指導員全員で支援検討会議を定期的に行い、アセスメント・支援方法について検討した。長年続けている読み書きチェックの考察を基に作成した教材を広く紹介し、湖南省の取組を全国に広げている。</p>	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課 題	<p>インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進という理念に則り、個別の指導計画を軸とした根拠ある合理的配慮の提供と、個に応じた多様な学びの場の充実に継続して取り組む必要がある。</p>
改善の方向性	<p>特別支援教育の視点に立った授業に市内一体となって取り組むこと、特別支援学級での指導の充実、アセスメントに基づいた合理的配慮の決定と実施を行う。</p>

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦加代子
担当者	青木義道

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	3	多文化共生教育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	外国人児童生徒への学習支援		
実施事業	校内におけるきめ細やかな日本語指導や支援の実施		継続
主な財源 (千円)	歳入	県支出金	1,747
	歳出	報償費(謝礼)、保険料	2,622

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	母語支援員を派遣している学校に関しては、通訳業務や翻訳業務も円滑に進めることができたが、外国籍児童生徒の少ない学校には予算的に配置できておらず、翻訳や通訳業務支障をきたすことがあった。
改善の方向性	本年度も予算的に厳しいところがあるので、県のいきいきサポート支援事業を活用し、月に1回母語支援員を派遣できるように進めたい。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	校内におけるきめ細やかな日本語指導や支援の実施
取組内容(活動指標)	日本語取得が不十分な外国籍児童生徒に対して、通訳を配置し日本語指導を行う。
目標(数値目標)	特別の教育課程の定着を図る。また、3人の母語支援員を配置する。
達成効果(成果指標)	日本語教室に通級し、日本語の基礎や日本の文化を学ぶことにより、日本の学校生活に適応できるようにする。また、通級児童生徒交流会に参加して、地域の方々との触れ合いや先輩の体験を聞くことで将来に見通しを立てながらよりよい人間関係を築くことができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	校内におけるきめ細かな日本語指導や支援の実施
実施内容(進捗実績)	市費の常勤講師2名を日枝中学校と水戸小学校に配置し、母語支援員(補助金事業)3名を小学校5校と中学校3校に週数回配置しており、日本語教室での通訳や日本語が十分理解できない児童生徒や保護者の支援にあたる等の業務を担当し、外国籍児童生徒の学力の向上と学校生活に適應するための支援に重要な役割を果たしている。 ここ最近、母国や他市町から転入してくる児童生徒は増加傾向にあり、こうした児童生徒に対応するために母語支援員の日数が足りず、十分な支援が行き届いていない状況も見受けられる。さくら教室には現在14名の児童生徒が通級していて、今後も増加が見込まれる。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
校内におけるきめ細かな日本語指導や支援の実施	市費の常勤講師(通訳)2名と母語支援員(補助金事業)3名が各学校で日本語教室での児童生徒の通訳を中心とした学習支援や、学校から発出される文書の翻訳、保護者対応での通訳などを行った。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	今後ますます外国人児童生徒が増加していく中で、通訳の人数、時間数が現状では足りない。また、現在は南米を中心とした児童生徒が多いが、今後は多言語化が予想される。多言語を話すことのできる人材は様々な場で必要とされるため、人材確保が非常に難しい。
改善の方向性	通訳や母語支援員の拡充と待遇の改善。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦加代子
担当者	高柳努

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	4	確かな学力を育む
施策	3	多文化共生教育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	多文化共生の推進		
実施事業	日本語初期指導教室「さくら教室」の充実	継続	
主な財源 (千円)	歳入	交付金	0
	歳出	賃金、消耗品費、医療材料費、通信運搬費、機械等借上料、教材教具費	9,068

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	通級修了後の円滑な転入のために、さくら教室と在籍校間との連携が必要である。また、前年度定員に達し、店員を20人→25人→30人と増やしたが、引き続き定員管理について注意を払う必要がある。
改善の方向性	各校の日本語教室窓口担当との情報共有を推進する。また、通級希望時には必ず現人数を確認する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	日本語初期指導教室「さくら教室」の充実
取組内容(活動指標)	日本語(国語)や算数(数学)の基礎や文化(学校文化を含む)、習慣などを指導する。また、在籍校と連携しながら個々の状況に応じた対応を進める。
目標(数値目標)	個々の日本語能力、学校適応力の向上を図る。
達成効果(成果指標)	個々の外国人児童生徒の日本語能力が向上し、学校適応力が増すことにより、通級修了後の在籍校での生活を充実したものにすることができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	日本語初期指導教室「さくら教室」の充実
実施内容(進捗実績)	通級希望時には必ず現人数の確認を徹底できている。入国すぐの児童生徒が多く、定員30人に対して20人前後で推移している。希望者が多いので3か月での通級修了を目指したいが、3か月では本来校に戻る日本語能力に達していない児童生徒が多くいる現状である。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
日本語初期指導教室「さくら教室」の充実	日本語の基礎や文化、習慣等については、市国際協会とも連携しながら充実した指導ができた。また、在籍校との連携も日本語教室担当者会を中心に情報を共有する等、概ねできている。語学力の向上は個人差はあるが、基本的に3ヶ月で在籍校へ帰ることを目標に取り組んできた。 ※今年度修了者数：15名	A ⊙ C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も通級者数は急に増える可能性があり、受入が可能か。</li> <li>3ヶ月で確実に本来校に戻る日本語能力を付けるためには、更に職員数を増やして、1人1人の児童生徒の日本語の力に合わせた指導を構築していく必要がある。</li> <li>特別な支援の必要な児童生徒への対応。</li> </ul>
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>確実に3ヶ月で本来校に帰れる力を付けさせ、新規受入れに対応できる体制を整えておく。</li> <li>職員数を増やして、学習環境を充実させる。</li> <li>学校に戻ったが、授業についていくことが難しい児童生徒の再受け入れ。</li> </ul>

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦加代子
担当者	青木義道

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	5	豊かな心を育む
施策	1	人間量を身につけた子どもの育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	さまざまな今日的教育課題への対応		
実施事業	いじめ防止基本方針の活用と児童生徒の主体的な取組の推進 再登校支援の充実	継続	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	報酬(委員報酬)	72

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	いじめをなくすための、『児童生徒の主体的な取組や意見』が必要であり不十分なところがある。
改善の方向性	児童会生徒会活動の充実を校長会等で依頼し、一部の代表児童生徒だけでなく、学校全体でのより活発な活動を促す。また、『湖南省いじめをなくそうサミット』の内容についても、現状にあった内容を検討し広がりのあるものにしていく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	いじめ防止基本方針の活用と児童生徒の主体的な取組の推進
取組内容(活動指標)	「第9回湖南省いじめをなくそうサミット」を開催し、児童生徒がいじめを無くす取組に、主体的に関わっていかうとする意欲を喚起する。 具体的ないじめ事案が発生した時には、基本方針に即して素早く対応する。
目標(数値目標)	「第9回湖南省いじめをなくそうサミット」に参加した児童生徒が、学校の現状を踏まえて、いじめを無くすためのアピール文を考えるとともに、サミットの様子や作成したアピール文を始業式や全校集会、人権集会等の機会に発表し学校全体での浸透を図る。
達成効果(成果指標)	各校のアンケートで、「いじめはいけない」と思う児童生徒を100%にする。
実施事業	再登校支援の充実
取組内容(活動指標)	学校が、ふれあい教育相談室やことばの教室、さらに発達支援室等と連携し、児童生徒にきめ細かなアプローチを行いながら、再登校支援ができるようにする。
目標(数値目標)	学校と関係機関との連携強化により、学校復帰(別室登校や教室復帰)を目指す。
達成効果(成果指標)	学校とふれあい教育相談室、さらに関係機関とが連携することにより、児童生徒が段階的に学校生活に復帰できるようにする。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	いじめ防止基本方針の活用と児童生徒の主体的な取組の推進
実施内容(進捗実績)	各校でいじめ防止基本方針を策定し、「いじめを許さない学校づくり・誰もが安心して学校生活を送ることができる学校作り」に取り組んでいる。8月6日に実施した「第9回いじめをなくそうサミット」では、市内の小中学校を卒業した先輩をゲストティーチャーに迎え、差別やいじめを乗り越えてきた経験を聞き、いじめをなくすためにそれぞれができることについてグループで話し合いをし、アピール文を作成し発表した。このアピール文を各学校での全校集会で発表するなどし、児童生徒が主体となった取組となっている。こうした学校の取組を地域の様々な場で発表している。いじめについては各学校で積極的に認知し、いじめの早期発見・早期対応に努めている。
実施事業	再登校支援の充実
実施内容(進捗実績)	学校とふれあい教育相談室との連携により、放課後登校など少しずつ学校に復帰できるようになった児童生徒もいる。特に発達障害等の二次的症狀や家庭的な要因の児童生徒については、言葉の教室や家庭児童相談室などの関係機関と連携しながら対応している。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
いじめ防止基本方針の活用と児童生徒の主体的な取組の推進	各校でいじめ防止基本方針を活用した児童生徒への指導や教職員での共有と取組を行い、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に取り組んだ。	A <input checked="" type="radio"/> B C D
再登校支援の充実	学校とふれあい教育相談室との連携で、放課後登校等学校に復帰できるようになった児童生徒がいた。言葉の教室や家庭児童相談室とも連携し、特別な支援の必要な児童生徒や家庭的な要因により登校のしづらい児童生徒への支援も継続して行うことができた。	A <input checked="" type="radio"/> B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	いじめの認知については、各教員によってまだまだ差が見られる。
改善の方向性	校長会や教頭会、生徒指導主任・主事会での研修や情報共有を通して、いじめを積極的に認知し、未然防止、早期発見・早期対応ができるよう推進していく必要がある。



## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦 加代子
担当者	松山 妙子

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	5	豊かな心を育む
施策	2	道徳力を身につけた子どもの育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	道徳教育の推進		
実施事業	道徳の時間の充実と道徳的実践力の育成	継続	
主な財源 (千円)	歳入	委託金	1,650
	歳出	報償費(謝礼)、旅費、消耗品費、印刷製本費	1,650

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	郷土資料集「伝えたい故郷の話」の積極的な活用が望まれる。
改善の方向性	推進校を中心に郷土資料集の活用を促し、実践の記録を指導案集にまとめていく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	道徳の時間の充実と道徳的実践力の育成
取組内容(活動指標)	文科省指定事業「平成29年度道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を菩提寺小学校、甲西北中学校を核として進める。推進校での実践の成果の普及を市内各校に広げる。
目標(数値目標)	菩提寺小学校・甲西北中学校の研究発表会や授業研究会では、各校の取組の成果を市内に普及する機会とする。推進校を中心に「郷土資料集」を活用した授業を行い、指導案集を蓄積する。市の「こころの教育推進協議会」を機能させ、家庭・地域を巻き込んだ取組を展開することで、自尊感情の向上を目指す。(自尊感情については、全国学力・学習状況調査質問紙を活用し、4月→1月の変化を検証する)
達成効果(成果指標)	家庭・地域を巻き込んだ取組を展開することで、子どもたちの自尊感情や規範意識等の向上につながる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	道徳の時間の充実と道徳的実践力の育成
実施内容(進捗実績)	市の「こころの教育推進協議会」を開催し、地域代表者や学識経験者の意見も取り入れながら、道徳教育を推進している。 研究員が推進校の授業を定期的に参観し「考え議論する道徳」への転換に必要なことを助言している。推進校を中心に「伝えたい故郷の話～心の教育・郷土資料集～」を活用した授業づくりについて、全職員で協議し指導案の作成に取り組み、授業実践を行っている。また、道徳の授業参観(全クラス公開)を実施することで、学校での取組を家庭・地域と共有し、道徳教育についてともに考えるきっかけとなるようにしている。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
道徳の時間の充実と道徳的実践力の育成	自尊感情についてのアンケートより、4月から12月の変化は、菩提寺小学校で71.8%→77.6%(5.8%アップ)、甲西北中学校で78.4%→81.7%(3.3%アップ)の結果が得られた。このことより道徳教育の充実が自尊感情の向上につながったと考える。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	推進校での実践の成果を市内小中学校に広げ、推進校以外の学校においても道徳教育の充実が望まれる。
改善の方向性	推進校の教職員が市内の道徳科ワーキンググループに所属することで、自校の取組を市内全体に広げる。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課・図書館・学校教育課
所管長	(生涯学習課) 吉永 恵子 (図書館) 井上 勝 (学校教育課) 松浦 加代子
担当者	(生涯学習課) 山川 真智子 (図書館) 岡本 美紀子 (学校教育課) 松山 妙子

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	5	豊かな心を育む
施策	4	読書活動の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	「湖南省読書の種まきプラン」に基づく読書活動の推進		
実施事業	(生涯学習課) 地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進	継続	
	(図書館) おはなし会の開催など、子どもと本との出会いの場の提供と保護者に対する	継続	
	(学校教育課) 学校図書館の機能を活用した授業の改善	継続	
主な財源 (千円)	歳入	(生涯学習課) なし	0
		(図書館) なし	0
		(学校教育課) なし	0
	歳出	(生涯学習課) 人件費	550
		(図書館) 報償費	142
		(学校教育課) 報償費(謝礼)、消耗品費、修繕料、保険料、委託料、電算借上料、備品購入費	7,252

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	<p>(生涯学習課) 「第3次子ども読書活動推進計画」策定に向けて、現状と取組実績などを確認したうえで計画を見直していくことが必要である。</p> <p>(図書館) 児童書の充実やおはなし会の開催など、子どもと本の出会いの場を提供し、子どもの読書活動を推進する。ただ、対象年齢によるサービス内容の差別化が必要のため、3歳児未満児、未就学児、小学生、中学生それぞれに適したサービスを探っていく必要がある。</p> <p>(学校教育課) 「学校図書標準」の達成に向けて図書の充実を図っているが、学校間で差があるため、数値が低い学校の図書館の充実が必要である。</p>
改善の方向性	<p>(生涯学習課) 「第3次子ども読書活動推進計画」策定に向けて委員会を組織する。事務局として現状と第2次計画策定時からの変化や取組実績などを把握し、平成31年3月に策定された滋賀県の計画もふまえて見直しを図る。推進体制のありかたや進行管理の方法などについても委員会で協議していく。</p> <p>(図書館) 3歳未満児向けのお話会は好評なため時間帯を平日午前中に集中化し、ブックスタート事業との連続性をより強化する。また、未満児については、保育園等への就園率が近年かなり上昇しているため、希望園を募り、移動図書館車の巡回を実施する。また、小学校についても、公立図書館の利用と学校図書館の利用の状況を確認するため、2校に試験的に移動図書館車を巡回し、読書の数値の変化を調査する。また、子どもの読書についての啓発的な講演会を継続し、子どもの読書の重要性についても、保護者に引き続き訴えていく。</p>

4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進
取組内容(活動指標)	「第3次子ども読書推進計画」策定に向けて、各課の取組や「第2次子ども読書推進計画」における指標の達成状況等を把握する。
目 標(数値目標)	平成31年度の指標目標達成に向けて、関係各課の取組を把握し、連携状況や課題などを把握するとともに、「子ども読書の日」や読書週間等における読書活動推進の啓発を行う。
達成効果(成果指標)	関係各課が連携し、それぞれの役割を果たし、また読書推進の啓発を行うとともに市民の協力を得ることで、効果的な読書活動の推進を図ることができる。また、読書活動によって、子どもの想像力・記憶力・思考力を育てることができるとともに、豊かな感性・人間性を育み主体的に生きる人間として育つために必要な判断力を培うことが期待できる。
実施事業	おはなし会の開催など、子どもと本との出会いの場の提供と保護者に対する啓発推進
取組内容(活動指標)	3歳未満児向けのお話会は好評なため時間帯を平日午前中に集中化し、ブックスタート事業との連続性をより強化する。また、未満児については、保育園等への就園率が近年かなり上昇しているため、希望園を募り、移動図書館車の巡回を実施する。また、小学校についても、公立図書館の利用と学校図書館の利用の状況を確認するため、2校に試験的に移動図書館車を巡回し、読書の数値の変化を調査する。また、子どもの読書についての啓発的な講演会を継続し、子どもの読書の重要性についても、保護者に引き続き訴えていく。
目 標(数値目標)	おはなし会の参加人数を29年度(1,298人)比で増加させる
達成効果(成果指標)	子どもへの読み聞かせの大切さを、保護者をはじめとする大人に伝えることにより理解を高める。より多くの人々が、おはなし会で実際に読み聞かせの機会に触れることにより、乳幼児期からの読書の推進に繋がる。 乳幼児期からの保護者による読み聞かせが子どもに与える楽しさや安らぎは子どもの自信につながり、継続的に読書に親しむことによって、自立して生きる力と人生の豊かさを得ることができる。
実施事業	学校図書館の機能を活用した授業の改善
取組内容(活動指標)	平成26年度に改訂した「新学校図書館図書整備5ヶ年計画」の5年目にあたる。「学校図書標準」の未達成の学校について予算を計画的に配当し、購入を進める。 学校司書の資質向上を図るために、研修会として有効であった「定例会」の内容を深め、「学校図書館機能を有効活用した授業」がより有効に児童生徒に働くようにする。
目 標(数値目標)	「学校図書標準」の数値(達成率30.7%)を、達成率46.1%に改善できるよう、予算・計画に基づき購入を進める。図書館整備については、改善を図った市内の学校の実践をさらに広め、読書センター・学習情報センターとしての機能を充実させる。 「湖南省図書流通システムを活用した授業」および「学校図書館の機能を活用した授業」において、授業者・学校司書が連携した授業を通して、学校司書の専門的な知識を授業の中で生かして児童生徒への支援を充実させる。
達成効果(成果指標)	「学校図書標準」を達成することで、さらに学校図書館を活用した授業の充実を図ることができる。学校図書館を利用することで、児童生徒の情報活用能力の向上が期待できる。 学校司書と授業者が連携した「学校図書館の機能を活用した授業」において、「ポイント5」を生かした子ども主体の授業を展開することができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進(生涯学習課)
実施内容(進捗実績)	「第3次子ども読書活動推進計画」策定に向けて、6月に「湖南市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要領」を制定し、7月に関係部局から7人の委員を決定し策定委員会を設置した。第1回策定委員会は7月30日、第2回策定委員会は9月19日に開催し、現状と課題把握および指標について協議した。
実施事業	おはなし会の開催など、子どもと本との出会いの場の提供と保護者に対する啓発推進(図書館)
実施内容(進捗実績)	年度の半分を過ぎた9月末時点のお話会の参加人数は375人で、昨年度同時期と比べ、62.5%(昨年度同時期での参加人数は、600人)にとどまっている。石部、甲西両図書館とも、また、図書館職員によるものも、ボランティアサークルによる実施のものもすべて減少している。今年度後半期の推移を見守りながら、その原因を分析し、対応の検討が必要である。新規サービスとしては、保育園・こども園・幼稚園(8園。9月～)、及び小学校(2校。7月～)に対する移動図書館車による巡回を再開した。また、昨年度までに引き続き、毎月、乳幼児定期健診時(4か月、10か月時)に読み聞かせの保護者への啓発などを行った。
実施事業	学校図書館の機能を活用した授業の改善(学校教育課)
実施内容(進捗実績)	「学校図書標準」の数値を達成している学校数は13校中4校で、現在も達成率は30.7%だが、未達成でも蔵書数が増えている学校が多い。 全ての小中学校で「学校図書館の機能を活用した授業」が実施されている。授業中での学校司書の果たす役割について研修会を実施することで、学校司書の授業への参画が増えている。また、研修会ではブックトーク等の授業支援の在り方を学び合ったり、司書間で情報交換をしたりすることを通して専門性を高めている。学校司書のブックトークにより、子どもの学習課題への興味関心を高めることができ、主体的に学んだり進んで読書をしたりする姿が見られている。さらには、学校司書の持つ専門的な知識を生かして、子どもに本の目次や索引の使い方等について支援することで、子どもは本を使って自分の力で調べることができるようになり、「さらに自分で調べたい」という学習への意欲が増している。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
地域、家庭、園、校が連携した読書活動の推進(生涯学習課)	「第3次子ども読書活動推進計画」策定に向けて、策定委員会を3回開催し、案をまとめた。その後、パブリックコメントの手続きを経て、令和2年3月に第3次計画を策定した。	A (B) C D
おはなし会の開催など、子どもと本との出会いの場の提供と保護者に対する啓発推進(図書館)	ブックスタート事業への協力を継続しておこなった。また、おはなし会の開催回数は、ほとんど変わっていないが、参加者の減少が著しい。子どもたちの保護者の就労率、未就学年齢層の就園率の上昇に対応すべく、保育園・こども園・幼稚園への移動図書館車巡回を実施し、この年齢層の読書環境を整えることに努めた。	A B (C) D
学校図書館の機能を活用した授業の改善(学校教育課)	学校図書標準の数値を考慮して図書費を分配することで、底上げを図った。また、「学校図書館の機能を活用した授業」を普及させることにより、子どもが図書を活用しながら主体的に学ぶスタイルが定着してきている。	(A) B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

<p>課 題</p>	<p>(生涯学習課) 第3次計画においては、関係各課、機関の連携・協力を密にし、それぞれが役割を十分に果たせるよう情報交換の場、計画の進捗管理を行う体制を作ることが必要である。                  (図書館) 子どもたちの保護者の就労率、未就学年齢層の就園率の上昇等により、おはなし会などへの参加者が減り、この年齢層に対する読書振興をどのように進めていくかが課題となっている。                  (学校教育課) 学校司書の配置が週に2～3日のため、授業者との連携が十分に取れない。</p>
<p>改善の方向性</p>	<p>(生涯学習課) 第3次計画では、施策の推進を表にし、連携課等を明記することで「見える化」を図った。計画期間中はこれに従い、進捗管理を行っていく。                  (図書館) 図書館以外の場でのおはなし会の開催を行うとともに、移動図書館車の巡回を昨年度までの公立保育園・こども園・幼稚園に加え、民間園にも広げていく等、利用の新たな開拓の実施。                  (学校教育課) 司書教諭や学年主任、教科主任等と学校司書との図書活用についての相談会を、年度初めや学期初めに実施することにより、学校司書や学校図書館を計画的に活用できる仕組みを作る。</p>

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦加代子
担当者	藪下和彦

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	6	健やかな体を育む
施策	1	子どもの体力向上への取組

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校体育の充実		
実施事業	体力・運動能力の向上に向けた取組		継続
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	小学校の「10分間運動」については、時間の確保の関係で毎日実施することはできなかった。そのため、「新体力テスト」で大きな成果が表れなかった。
改善の方向性	学校の実態に沿った形で「10分間運動」は継続する。また、体育の授業において『効果的な体力向上』の授業実践の研究を深める。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	体力・運動能力の向上に向けた取組
取組内容(活動指標)	各校において、体力向上に向けた内容(筋力アップトレーニング・持久力アップトレーニング等)を、年間指導計画の中に計画的に位置づけて取り組む。
目標(数値目標)	教科体育の充実と新体力テストにおける記録の向上を目指す。
達成効果(成果指標)	運動することを通して、自分の健康の保持増進に関心を持ち、体力向上にも繋ぐことができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	体力・運動能力の向上に向けた取組
実施内容(進捗実績)	各校、年間計画に沿って、体力向上に向けた取組をすすめている。新体力テストの詳細な分析については、各校の実態に応じて進めている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
体力・運動能力の向上に向けた取組	全ての小学校で「10分間運動」を定期的を実施することができた。そのことが児童の運動に対する興味関心を高めることにつながった。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	小学校の「10分間運動」については、時間の確保の関係で毎日実施することはできなかった。そのため、「新体力テスト」で大きな成果が表れなかった。
改善の方向性	学校の実態に沿った形で「10分間運動」は継続する。また、体育の授業において『効果的な体力向上』の授業実践の研究を深める。



## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	生涯学習課
所管長	吉永 恵子
担当者	井上 諒

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	6	健やかな体を育む
施策	1	子どもの体力向上への取組

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	子どものスポーツ機会の充実		
実施事業	第3回「湖南省スポーツフェスティバル」における子ども対象事業の実施	継続	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	スポーツフェスティバルについて、補助金の関係で同様に実施するのは難しいかもしれないが、できる限りの範囲で子ども対象事業を減らすことなく実施する。
改善の方向性	特になし

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	第3回「湖南省スポーツフェスティバル」における子ども対象事業の実施
取組内容(活動指標)	前年度に引き続き、多種目のスポーツ体験コーナーを設けるとともに、子どもが体を動かすことやスポーツの楽しさを体験できる教室を実施する。
目標(数値目標)	子ども対象の教室を2つ以上実施する。
達成効果(成果指標)	子どもや親子を対象の教室を実施することで、体を動かすことやスポーツの楽しさが伝わる効果が高まる。親子で実施してもらうことで、日常的に体を動かす習慣をつけることができ、運動を始める子どもが増加することが期待できる。

5. 進捗状況(9月30日現在)

※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	第3回「湖南省スポーツフェスティバル」における子ども対象事業の実施
実施内容(進捗実績)	第3回湖南省スポーツフェスティバルは、今年度からスポーツと健康の関わりを重視し名称を「湖南省スポーツフェスティバル×健康まつり」に変更した。内容としては、滋賀ユナイテッドの選手による野球教室、MIOびわこ滋賀コーチによるサッカー教室、NINJA AIRSコーチによるバスケ教室を開催する。また、幼少期からスポーツをすることの楽しさを伝えることができる場として、親子ふれあいリズム体操や生涯スポーツの体験の機会として、ニュースポーツ的当てチャレンジラリーの開催など、いつでも子どもが参加可能な事業を実施予定である。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
第3回「湖南省スポーツフェスティバル」における子ども対象事業の実施	野球、サッカー、バスケ、陸上など多種目の子供向け教室の開催により、スポーツの楽しさを体験していただくことができた。また、ニュースポーツと触れ合う機会をつくり、スポーツ体験の幅を広げることができた。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	日頃学校やスポーツ少年団で体験したことのない異種目にふれあってもらえるのも一つの目的であり、偏りがないよう色々な種目が体験できる仕組みをつくることを検討する。
改善の方向性	特になし

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦加代子
担当者	久保亨

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	6	健やかな体を育む
施策	2	学校保健の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校における健康教育の充実		
実施事業	薬物乱用防止等、保健・体育科での授業の取組	継続	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学習をする機会が少なく、児童生徒に継続した指導が十分できていない。
改善の方向性	年間を通して計画的に学習する場を確保する。(保健体育、学級活動、道徳等さまざまな教科で学習する場を作る。)

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	薬物乱用防止等、保健・体育科での授業での取組
取組内容(活動指標)	薬物乱用防止教育を推進するために、年間計画を立て一年間を通じた学習にする。また、健康福祉部との連携(保健士を学校へ講師として招き、専門的な知識の伝達をお願いしています。)を図る。
目標(数値目標)	各学校において、現行の学習内容を確実に継続する。また、さまざまな学習機会を利用して薬物の危険性について学ぶ機会を設ける。
達成効果(成果指標)	学校が年間を通して薬物乱用防止教育を行うことにより、薬物の危険性を学び、健康な生活習慣を心がけるようになる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	薬物乱用防止等、保健・体育科での授業の取組
実施内容(進捗実績)	各校、年間計画に沿って、薬物乱用防止教育を進めている。引き続き健康福祉部等と連携し取組を充実させていく予定である。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
薬物乱用防止等、保健・体育科での授業の取組	小学校6年生と中学校2年生の保健の授業でどの学校も薬物乱用等についての学習を行っている。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	教科書の記述だけでは、薬物乱用等に関する知識や実践的態度が育ちにくい。
改善の方向性	多くの学校は、薬物乱用等に関する学習においては、より効果的な資料を活用したり講師を召喚して授業を行っている。今後も継続して取組を進めていきたい。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦加代子
担当者	久保亨

## 1. 評価項目

基本的方向	2	子どもたちの生きる力を育てる
政策	6	健やかな体を育む
施策	3	食育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校における食育の推進		
実施事業	健康湖南21・食育推進計画の推進	継続	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	朝食摂取状況調査の結果では、年々摂取者が減少しており心配である。児童生徒への指導だけでなく保護者に対する食への啓発が必要である。
改善の方向性	『保健だより』『給食だより』の内容を工夫し、保護者と協力した食育の推進を図る。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	健康湖南21・食育推進計画の推進
取組内容(活動指標)	食育指導を推進するために、健康福祉部と連携して計画的に進める。また、各中学校家庭科との連携を図る。
目標(数値目標)	健康推進員やボランティアと連携して、各中学校において、ふれあい食育教室を開催することにより、食に対する関心を高める。
達成効果(成果指標)	学校と地域が連携した、ふれあい食育教室を開催することにより、生徒が食に関心をもち、朝食の大切さや栄養バランスを考えた食生活を心がけるようになる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	健康湖南21・食育推進計画の推進
実施内容(進捗実績)	各校、年間計画に沿って、食育指導を進めている。『保健だより』『給食だより』等による啓発やふれあい食育教室等の体験学習を行い食育をすすめているが、朝食摂取状況調査(6月)では、昨年度85.6%に対し、今年度は81.5%であり、昨年度より4ポイント下がっている。男女別に見てみると、女子が83.9%に対して男子が79.0%となっており、男子の朝食摂取率が低くなっている。また、男女の差も昨年度は1.5%であったが、本年度は4.9%と開きが大きくなっている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
健康湖南21・食育推進計画の推進	本年度の朝食摂取率は昨年度を若干下回っているが、2022年度の目標は上回っており、目標は達成できていると言える。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	昨年度に比べて、朝食の摂取状況が低くなっているが、この主な要因が何であるのか検証し、より有効な手立てを講じていく必要がある。
改善の方向性	親世代の朝食摂取率は子どもに比べてかなり低いので、健康政策課と連携し保護者の朝食摂取率を高めることで子どもの摂取率も高めていきたい。また、保護者への啓発は、学校だよりで子どもの食育の取組を掲載しているが、保護者の朝食摂取についても啓発していくことが大切である。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦加代子
担当者	青木義道

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	7	信頼される学校を創る
施策	1	安全教育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	安全教育の実施		
実施事業	各校園における交通安全教室・避難訓練の実施	継続	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	避難する状況は様々であり、今後多様な訓練の実施が必要である。
改善の方向性	各校の防災コーディネーターを中心に、あらゆる場面を想定した訓練を行う。(休憩時間災害発生時・引き渡し訓練等)

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	各校園における交通安全教室・避難訓練の実施
取組内容(活動指標)	年度当初から交通安全教室や避難訓練を、関係機関と連携して計画的に実施する。
目標(数値目標)	交通安全教室や避難訓練を通して児童生徒が危険を予測した動きを取ることができるようになるとともに、自分の命は自分で守っていこうとする意識を持たす。
達成効果(成果指標)	児童生徒が交通安全に気をつけることにより、交通事故が減少する。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	各校園における交通安全教室・避難訓練の実施
実施内容(進捗実績)	各校、年間計画通り避難訓練・交通安全教室が実施できている。5月の教頭会で甲賀消防署を招いて研修会を行った。今年度よりモデル校(下田小学校)を指定し、特に避難訓練において消防署と連携した取組を行い、その取組を市内全体に広めていく予定である。 交通事故の発生状況は、9月末現在で、昨年度の14件に対し、今年度は9件となっており、減少している。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
各校園における交通安全教室・避難訓練の実施	各校で、年間計画通り避難訓練・交通安全教室が実施できた。交通事故については、2月の段階で昨年度より24件減少した。2月の教頭会では、今年度のモデル校(下田小学校)からの取組の発表と、消防署員を招いて研修会を行った。水害についても各校で避難確保計画を作成した。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	消防署を招いての避難訓練の日程調整が難しい。
改善の方向性	前年度のうちに各校で次年度の計画を立て、市教委が集約をして消防署に依頼をする。



## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦加代子
担当者	北岡弘

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	7	信頼される学校を創る
施策	1	安全教育の推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	通学路の安全対策		
実施事業	「湖南省通学路交通安全プログラム」に基づく合同点検および対策の実施	継続	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	事務局としてスケジュールに基づき適切な進行管理をするとともに、通学路の安全対策が着実に進む必要がある。また、ソフト面においては、学校や地域との連携を強化していく必要もある。
改善の方向性	会議の機会を利用するなどして関係機関と協議を行い、連携して通学路の安全対策を進める。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	「湖南省通学路交通安全プログラム」に基づく合同点検および対策の実施
取組内容(活動指標)	関係機関と連携をとり、9月に各小中学校PTAから2か所以内で通学路危険箇所改善要望書の提出を市PTA事務局の生涯学習課を通じて受け、関係者による合同点検を実施し、通学路安全推進会議において対策の検討を行う。検討結果は、一覧表として年度末に公表する。また、改善実施状況および効果把握についても定期的に確認を行い、結果を公表する。
目標(数値目標)	プログラムに基づき、事務局として関係機関と連携をとり、会議および合同点検の実施や対策、対策状況の公表までの一連の流れについて適切な進行管理を行う。
達成効果(成果指標)	通学路安全推進会議やプログラムが適切に機能することで、通学路の危険箇所に対する対策が進み、通学路の安全確保を図ることができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	「湖南省通学路交通安全プログラム」に基づく合同点検および対策の実施
実施内容(進捗実績)	当初予定通りに進んでいる。10月3日に推進会議を開催予定。また、5月大津市において集団で歩道を通行中の園児らが死傷する痛ましい交通事故を受け、未就学児が日常的に集団で移動する経路の安全対策を講じることとなった。そのため、本プログラムの見直しも進めている。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
「湖南省通学路交通安全プログラム」に基づく合同点検および対策の実施	PTAからの要望を受け関係機関との会議、現地確認を終え出来る施策はできる限り早く実施しその結果をPTAに報告した。また市ホームページでも結果を公表する。	A <input checked="" type="radio"/> B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	対策を講じる必要がある箇所は複数あるが、報告は2か所に限定している。「湖南省通学路交通安全プログラム」に、未就学児が日常的に集団で移動する経路の安全対策を講じることを加えることとなった。プログラムの改正が必要。諸会議について関係各課が多数であるので調整が困難であった。
改善の方向性	「湖南省通学路等交通安全プログラム」と改正した。会議についてはプログラムの中に事前に日を設定した。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦 加代子
担当者	藪下 和彦

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	7	信頼される学校を創る
施策	2	開かれた学校づくりの推進

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	絶えず地域へ情報発信する取組		
実施事業	校報・ホームページ・プレスリリース等による学校からの情報発信	継続	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	ホームページ更新の技術的な問題。
改善の方向性	更新ができない学校のパソコン環境を改善する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	校報・ホームページ・プレスリリース等による学校からの情報発信
取組内容(活動指標)	広報を発行し、各校園の取組に関する報告や各校園で課題となっていることを伝える。 特に、小中学校ではHPによっても情報発信を行い、紙媒体では、十分でない子どもたちの活動の様子について伝える。
目標(数値目標)	校園の広報は、月1回以上発行する。HPの更新は、各校のPC管理技術者の状況を踏まえ、できる限り全校園で更新するよう努める。
達成効果(成果指標)	校園からの情報発信は、校園に対する理解を深め、校園の取組に対する保護者や地域の協力を得やすい土壌づくりの一助となる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	校報・ホームページ・プレスリリース等による学校からの情報発信
実施内容(進捗実績)	校報広報については、各校園において月1回以上の発行がなされた。 また、ホームページの更新については、実情に応じ、その都度、更新がはかられた。特色ある学校行事についても、毎月プレスリリースを行い、情報発信に努めている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
校報・ホームページ・プレスリリース等による学校からの情報発信	各月1回以上の広報発行を行うことができた。	A (B) C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	HPの更新
改善の方向性	最新の情報が提供できるように努める。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	教育総務課
所管長	寶田 晶子
担当者	中井 孝至

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	8	教育環境の充実を図る
施策	1	学校環境整備の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校施設の環境整備事業		
実施事業	小学校空調設備整備事業	継続	
	監理委託料、工事費	継続	
主な財源 (千円)	歳入	ブロック塀・冷房設備対応臨時交付金	46,265
	歳出	監理委託料、工事費	375,311

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学校を使用しながら工事を行う必要があるため、夏休みを中心とした工事を行う必要がある。
改善の方向性	学校及び請負業者と連携を図りながら安全かつ迅速な施工に努める。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	小学校空調設備整備事業の実施
取組内容(活動指標)	石部南、三雲東、下田、菩提寺北小学校において夏休みを中心とした空調設備の整備工事を行う。
目標(数値目標)	石部南、三雲東、下田、菩提寺北小学校において夏休みを中心とした空調設備の整備工事を行い8月末で工事完了をする。
達成効果(成果指標)	空調機を整備することにより、夏季の熱中症対策を行うとともに、快適で勉学に取り組みやすい学校環境をつくり学力の向上が図れる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	小学校空調設備整備事業の実施
実施内容(進捗実績)	石部南、三雲東、下田、菩提寺北小学校において夏休みを中心とした空調設備の整備工事を行い、8月末に完成、2学期より使用することができた。今回の整備で市内小中学校全ての空調設備を完了することができた。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
小学校空調設備整備事業の実施	石部南、三雲東、下田、菩提寺北小学校において夏休みを中心とした空調設備の整備工事を行い、8月末に完成、2学期より使用することができた。今回の整備で市内小中学校全ての空調設備を完了することができた。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	学校施設の環境整備事業は児童生徒の安全確保等から学校との綿密な連携が必要である。
改善の方向性	今回の整備で市内小中学校全ての空調設備を完了することができたので、今後はトイレの洋式化および長寿命化改修に学校と連携しながら取り組んでいく。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	教育総務課
所管長	寶田 晶子
担当者	中井 孝至

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	8	教育環境の充実を図る
施策	1	学校環境整備の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	効率的な施設改修の推進	
実施事業	学校施設長寿命化計画の策定	継続
主な財源 (千円)	歳入	0
	歳出	0

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	国の方針により平成32年度までに学校施設長寿命化計画を策定しなければならない。児童や生徒数が減少していく中で、学校における各教室の活用方法なども考慮しながら、老朽化に対する修繕や改修時の長寿命化対策を行政・公共施設適正化室と一緒に検討し計画を策定する必要がある。
改善の方向性	平成30年、31年度の2か年で学校施設長寿命化計画を行政・公共施設適正化室と一緒に策定し、より計画的な施設の改修や維持等を行っていく。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	学校施設長寿命化計画の策定
取組内容(活動指標)	平成30年度に収集し分析等を行った資料を基に行政・公共施設適正化室と一緒に検討し計画を策定する。
目標(数値目標)	年度末までに行政・公共施設適正化室と一緒に検討し計画を策定する。
達成効果(成果指標)	学校施設長寿命化計画を策定することにより、より計画的な施設の改修や維持等を行っていくことができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	学校施設長寿命化計画の策定
実施内容(進捗実績)	学校施設長寿命化計画の策定に向けて、行政・公共施設適正化室と資料や情報を共有し検討を進めているところである。しかしながら、行政・公共施設適正化室は、学校施設を含めた公共施設全体の長寿命化計画を策定する予定であり、学校施設だけの検討を先行して進めることができないという課題がある。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
学校施設長寿命化計画の策定	学校施設を含めた公共施設全体の長寿命化計画を令和2年度中に策定延期すると方針転換があったため、学校施設長寿命化計画を策定することができなかった。	A B <b>C</b> D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	公共施設全体のバランス等もあり、学校施設だけの検討を先行して進めることができないという課題がある。
改善の方向性	行政・公共施設適正化室と共に令和2年度の策定を目指していく。



## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	教育総務課
所管長	播口 嘉紀
担当者	佐藤 慎也

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	8	教育環境の充実を図る
施策	2	学校給食の充実

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校給食の効率的な運営		
実施事業	アレルギー対応食の提供		継続
主な財源 (千円)	歳入	給食費負担金内	-
	歳出	需用費・賄材料費内	-

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	現在のアレルギー対応室の処理能力や他アレルゲンの混入の危険性を考えると卵以外のアレルギー対応食の提供が難しい。
改善の方向性	園児児童生徒の年代でのアレルギーの原因食物としては卵と乳製品の割合が最も多く占めることから、引き続き卵アレルギーの対応食をできるだけ増やすとともに、牛乳の提供についても保護者の申出により提供中止の措置を続けることとする。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	アレルギー対応食の提供
取組内容(活動指標)	学校と連携し安全面に配慮した上で、最もアレルギー対象の多い卵アレルギーについて対応食の提供を引き続き行う。
目標(数値目標)	卵アレルギー対応食の提供について前年度並みの回数を維持する。
達成効果(成果指標)	卵アレルギー対応食を提供することにより、対象者にとってより給食に親しみを持ってもらくとともに、保護者の負担を軽減することができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	アレルギー対応食の提供
実施内容(進捗実績)	今年度は市内幼稚園・保育園・こども園計9園15人、市内小中学校計11校31人に卵アレルギー除去対応の依頼をいただいた。9月末現在、年度替わりの繁忙期、および夏休み期間を除く、6・9・10月(予定)に卵アレルギーの代替え食を提供し、昨年度並みの実施を行っている。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
アレルギー対応食の提供	令和元年度は6・9・10・11・2月(10月は2回)に卵アレルギーの代替え食を提供、前年度並みの実施を行った。	A ⊙ C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	アレルギー調理室の処理数や他アレルギー混入の危険性を回避することを考えると卵アレルギー以外の対応が難しい。
改善の方向性	園児児童生徒の年代でのアレルギーの原因食物としては卵と乳製品の割合が多数を占めることから、引き続き卵アレルギーの対応をできるだけ実施するとともに、牛乳の提供についても保護者の申請により提供中止の措置を続けることとする。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦加代子
担当者	松山 妙子

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	9	教職員の資質向上を図る
施策	1	教師力・組織的対応力アップへの取組

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	教職員の資質と実践的指導力の向上		
実施事業	教師力アップセミナーの充実		継続
主な財源 (千円)	歳入	甲賀市・湖南省教職員合同研修負担金	90
	歳出	報償費	452

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	教師力アップセミナーは講座受講者数に差が見られた。
改善の方向性	教師力アップセミナーの参加者数について各校で制限を設けることで、校内で担当を意識して選択・調整し、研修の成果を普及することに努められるようにする。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	教師力アップセミナーの充実
取組内容(活動指標)	「講師は湖南省の教職員が行う」、「自分のニーズに合った講座を選択する」をコンセプトに他機関と連携した講座などを組み入れる「教師力アップセミナー」を夏季休業中に実施する。
目標(数値目標)	「重なる」をキーワードに小・中教育研究会主催の大会・講座、いじめをなくそうサミット等を講座に位置付けることで、教職員の校務分掌や教職員のニーズをより加味した「教師力アップセミナー」にする。そのことにより、講座での受講者数の差を軽減する。
達成効果(成果指標)	「教師力アップセミナー」の講師は、自己の実践の整理・分析等に繋がるだけでなく、「伝わりやすい方法」を考える中で、さらに授業改善へと結びつけることができる。また、受講者の校務分掌やニーズに合った講座を受講することで、2学期以降の実践へと繋ぐことができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	教師力アップセミナーの充実
実施内容(進捗実績)	甲賀市とも連携をしながら27講座を実施した。一教職員につき一講座以上を選択し、のべ487名の参加があった。新学習指導要領を意識した研修や実践に即した研修であったため、積極的に参加する教職員の姿が見られた。研修後のアンケート結果より、どのセミナーも教職員にとって学びの多い満足できる研修会だったことがうかがえた。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
教師力アップセミナーの充実	教職員のニーズに合った講座を「教師力アップセミナー」に位置付けることができた。関係機関と連携しながら27講座を開催し、延べ487名の参加があった。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	負担感を持つ教職員が見られるので、本事業の趣旨を理解し、自己の教師力を高めるために積極的な参加が望まれる。
改善の方向性	本事業の趣旨について、校長会で説明する。また、「重ねる」をキーワードに小・中教育研究会主催の大会・講座、いじめをなくそうサミット等を講座に位置付けることで、教職員の校務分掌や教職員のニーズをより加味した「教師力アップセミナー」にする。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦加代子
担当者	種村 瞳

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	9	教職員の資質向上を図る
施策	1	教師力・組織的対応力アップへの取組

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	組織対応と外部機関との連携強化	
実施事業	学校・関係機関と連携を図りながら家庭を支援する社会福祉士のケースワーク	継続
主な財源 (千円)	歳入	なし
	歳出	報償費(謝礼)
		0
		2,672

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	SSWの活用について、配置人数が増えるほどに支援もしやすくなるが、SSW同士の共通認識も重要になるので、市内でばらつきが出ないように連絡会の開催の方法について検討する。また、社会福祉士と学校との連携についても、各校の体制や担当者によってばらつきが出てきている。
改善の方向性	年度初めにSSWと社会福祉士が学校訪問を行い、管理職や窓口担当者となる先生との関わっていく子どもや保護者の確認および共通理解を行う。また、職員会議などの場を借りて新任や転任の先生方、活用をしたことがない先生方へ、相談経路など活用方法について周知が図れるように努める。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	学校・関係機関と連携を図りながら家庭を支援する社会福祉士のケースワーク
取組内容(活動指標)	年度初めにSSWと社会福祉士が同行により学校訪問を行い支援の必要な子どもたちについて学校と共通理解を図る。初期に適切なアセスメントを共有し、関係機関と連携した支援につなげる。
目標(数値目標)	ケース会議や巡回相談の会議において支援の進捗状況を確認し合う。SSWたよりや連絡会も活用する。
達成効果(成果指標)	学習面だけでなく家庭支援においても小中連携が深まるように取り組む。配置のない学校においても支援が必要であれば活用を促進する。また、特別支援担当指導主事と生徒指導担当指導主事との情報共有にも努め、教育と福祉がお互いの良さを生かして支援ができるように他機関と学校との繋ぎの役割と果していく。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	学校・関係機関と連携を図りながら家庭を支援する社会福祉士のケースワーク
実施内容(進捗実績)	今年度も各中学校区に1名のSSWの配置をおこない、年度初め、校長会ほか学校訪問(職員会議内でのあいさつ説明)等において、SSWおよび社福士活用について共通理解を図った。さらに外部関係会議ほか巡回相談会議、昨年からの参加の人権主任会議、SSW連絡会において、支援・連携が必要な子どもたちについて各校区内での初期アセスメントを含めた情報共有をおこなうことで、学校、関係機関と連携を深めている。社福士の各校への個別ケース会議への出席は8月末時点28件であるが、懸案されることとして、招集数に各校での差がみられることから、継続した活用促進の働きかけに加えて、要因の検証が必要。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
学校・関係機関と連携を図りながら家庭を支援する社会福祉士のケースワーク	SSWを含む学校発信の気にかかる児童家庭へのアプローチに注力し、学校教育課社福士から新規に市関係機関へ連携したケースは年間20件にのぼる。継続ケースも含めてだが、毎月の巡回相談会議ほか、関係する会議、または教委内担当において支援の必要な児童について情報共有、共通理解を図り、各学校とも共有を行うことで、関係機関との連携も深まり、日々の児童の丁寧な支援へつながる効果が生まれた。	Ⓐ B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	各中学校区においてSSW 1名の配置をおこない、配置校ではない小学校へも小中連携を含め活用を推進しているところだが、SSW、社福士活用には各校で差がみられるところであり、浸透の不十分さを感じる。各校、各教員に有効な活用方法を理解してもらう必要がある。
改善の方向性	年度初めの学校訪問において、管理職や担当教員へのSSW、社福士活用における理解を深めたうえで、各校内での周知徹底を図る。職員会議他、特支CO担当者会議等の各部会、SSW広報誌の有効活用に努める。

## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	教育総務課
所管長	寶田 晶子
担当者	中井 孝至

## 1. 評価項目

基本的方向	3	安心・安全で質の高い教育環境を整備する
政策	9	教職員の資質向上を図る
施策	2	コスト意識の醸成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	学校現場における管理意識の醸成		
実施事業	行政と教職員における施設管理の連携強化		継続
主な財源 (千円)	歳入		0
	歳出	人件費(教育総務課担当職員分のみ計上)	8,500

## 3. 今年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	<p>日常、各学校においてさまざまな修繕箇所が発生しているが、その中には現場の管理不十分により発生しているもの、また業者に発注するまでに詳細な状況確認により自分たちでの修繕が可能なものも少なくない現状である。今後は、教育委員会事務局と教職員が共に限られた財源を必要な修繕に充て、自分たちでも日々の維持管理を積極的に進めるといった意識を醸成させることが必要である。</p> <p>また、地域のボランティアの方々やPTAの方々による奉仕作業についても、施設の管理に必要な作業をお願いするなど、修繕範囲の検討を行う必要がある。</p>
改善の方向性	<p>現場での学校運営を行う教職員の施設管理に対する意識の向上を図るため、校長・教頭を中心に現場での施設管理の必要性を説明し、教育委員会事務局と連携しながら修繕方法などの検討を行うことで、財源のいる業者への発注修繕を真に必要な箇所へ充てることができる。</p>

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	行政と教職員における施設管理の連携強化
取組内容(活動指標)	年度初めに行う学校予算配当説明会において、昨年度の修繕状況や日常の維持管理により防げる修繕などについて説明し、教頭を中心とした教職員の施設管理に対する意識の向上を図るとともに、教育委員会事務局との連携を強化する。
目標(数値目標)	昨年度の修繕内容を基に、教職員と教育委員会事務局が連携し、修繕の難易度に基づき、自分たちで修繕可能なものについては、自ら修繕を行う。
達成効果(成果指標)	教育委員会事務局と教職員が連携して施設の維持管理を行うことにより、児童や生徒たちにも施設を大切にすることが芽生えたとともに、限られた財源の有効活用を図ることができる。 また、日常の維持管理の徹底により、発生する修繕を抑制することができる。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	行政と教職員における施設管理の連携強化
実施内容(進捗実績)	修繕が必要な箇所において、教頭や学校事務等と立会を行い、状況を確認しながら修繕方法や原因等を検討することができている。特に今年度は台風準備として各学校を回り、教職員と一緒に安全点検や排水溝のつまり除去等を行い、より一層、教職員の施設管理に対する意識の向上や教育委員会との連携を強化することができた。

6. 所管課評価(最終)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
行政と教職員における施設管理の連携強化	修繕が必要な箇所において、教頭や学校事務等と立会を行い、状況を確認しながら修繕方法や原因等を検討することができている。特に今年度は台風準備として各学校を回り、教職員と一緒に安全点検や排水溝のつまり除去等を行い、より一層、教職員の施設管理に対する意識の向上や教育委員会との連携を強化することができた。	A B C D

7. 来年度取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	教育委員会事務局(学校設置者)と教職員(学校管理者)が共に限られた財源を必要な修繕に充て、教職員(学校管理者)自らも日々の施設維持管理を積極的に進めるという意識を醸成させることが必要である。
改善の方向性	令和元年度に引き続き、行政と教職員における施設管理の連携強化を行いながら、コスト意識を高めていく。



## 令和元年度 湖南省教育事業評価シート

所管課	学校教育課
所管長	松浦 加代子
担当者	村地 和代

## 1. 評価項目

基本的方向	1	学校が主体となって主権者教育に取り組む。
政策	1	学校・地域が連携して、夢と志を育てる主権者教育推進に取り組む。
施策	3	夢と志の持てる子どもの育成

## 2. 施策(具体施策)の概要

施策(具体施策)	主権者教育の推進		
実施事業	主権者教育推進事業	継続	
主な財源 (千円)	歳入	なし	0
	歳出	なし	0

## 3. 今年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	平成28年の公職選挙法改正に伴う選挙権を有する者の18歳の引き下げに伴い、主権者教育の重要性が提唱された。その目的や意義を踏まえ、主権者教育は単に政治の仕組みについての知識を習得させるものではなく、夢と志を育み、生きる力の根っこを育むものであるということを共通理解し、取組を進めた。今後はさらに、自分たちで考えたことを市へ発信できるような児童・生徒が参画できるような取組を広げる必要がある。
改善の方向性	主権者教育は、学習指導要領を超えた新たな内容を指導するものではなく、これまでも十分に指導してきた内容を取り上げるものである。教科等の目標や内容に照らして、主権者教育の視点で指導内容や指導方法を各校が工夫する。

## 4. 今年度の実施事業別の具体的な内容等

実施事業	主権者教育推進事業
取組内容(活動指標)	平成30年度の自校の取組や他校の取組を踏まえ、議会や市との連携を想定した各校の取組を教頭会にて検討し、進めていく。
目標(数値目標)	市内全ての小中学校(13校)の実践を集約する。
達成効果(成果指標)	主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担う力を発達段階に応じて身に付ける。

5. 進捗状況(9月30日現在) ※進捗の遅れ、また懸案や課題等もある場合はその内容も記載する。

実施事業	主権者教育の推進
実施内容(進捗実績)	6月の校長会および教頭会にて、昨年度まとめた主権者教育の概要や取組について周知した。また、昨年度成果のあった三雲小学校4年生が湖南市長に政策提言した実践についても併せて紹介した。 これらを踏まえ、現在各校で取組を進めているところである。 さらに、甲西中学校および甲西北中学校は、令和元年度「中学生アイデアキャンプ」へ初めて参加をした。

6. 所管課評価(最終)

A: 目標以上の取組ができた B: 目標通りの取組ができた C: 目標までの取組ができなかった D: 全く取組ができなかった

実施事業	実施内容(最終実績)	達成度
主権者教育の推進	市内全ての小中学校で実践を行うことができた。小学校高学年から中学校にかけては、地域へ発信したり参画したりする取組を充実させることができた。	A(Ⓑ)C D

7. 来年度の取組にあたっての課題と改善の方向性

課題	今年度は令和元年度「中学生アイデアキャンプ」への参加は、昨年度より1校増え、2校となった。市内全ての中学校で実施することで、学ぶ機会を確保する必要がある。
改善の方向性	令和元年度「中学生アイデアキャンプ」へ市内全中学校が参加する。